

鶴岡市立莊内病院

医学雑誌

第30巻/ 2019



The Medical Journal of Tsuruoka Municipal Shonai Hospital

卷頭の言葉

院長 鈴木 聰

特集 特定行為に係る看護師の研修を修了して 1

認定看護師による「特定行為に係る看護師の研修」受講からの取り組み 副院長兼看護部長 原田あけみ

当院における活動 特定 集中ケア認定看護師 三浦良哉

病院・地域における活動 特定 皮膚・排泄ケア認定看護師 梅本貴子

原著・研究・症例

閉鎖孔ヘルニア46例の検討	15
外 科 太田依璃子	
ニボルマブ投与後に細胞障害性抗癌剤単剤投与が2度奏功した肺癌の1例	21
呼吸器科 河上 英則	
莊内病院脳神経外科の50年	27
脳神経外科 佐藤 和彦	
急性期脳梗塞に対するアルガトロバン高用量療法の経験	37
脳神経外科 佐藤 和彦	
乳幼児の「おしゃぶり」と不正咬合	45
小 児 科 布施 理子	
TKA術前計画CT検査におけるSDの増加が三次元術前計画システムに及ぼす影響	51
放射線画像センター 佐藤 大樹	
当院救急外来看護師の代理意思決定支援の現状と課題	59
看護部 救急センター 小南亜矢子	
Family Centered Careに活かせる情報収集を目指して-入院時情報用紙の改訂を検討して	65
看護部 NICU・GCU 菅原 留美	
エジンバラ産後うつ病調査票得点者のリスク因子の分析	73
看護部 4階西入院棟 梅津 和佳	
体内固定用金属製スクリューの向きがSEMAR画像に与える影響について	79
放射線画像センター 大澤 由瑛	
2018年 学術活動業績	85

2018年 学術活動業績

I. 他誌掲載論文

著者名	所属科	掲載誌 卷(号):頁, 年	論文名
鈴木 宣瑛, 浦川 貴朗, 後藤 真一, 日向野 行正, 上村 一成, 穂苅 翔, 瀧谷 洋平, 平野 優樹, 染矢 圭一郎	整形外科	東北整災誌 61(1):25-27, 2018	骨盤輪後方要素損傷を合併した 高齢者脆弱性恥骨骨折の保存加 療成績
上村 一成, 細野 泰照, 荒引 剛	整形外科	骨折 40(3):780-783, 2018	発症4年後と6年後に骨癒合を 確認できた第1肋骨疲労骨折の 2例
鈴木 尚樹 ¹⁾ , 正岡 俊明 ¹⁾ , 佐藤 昂 ²⁾ , 河上 英則 ²⁾ , 内ヶ崎 新也 ³⁾ , 和泉 典子 ⁴⁾	1) 呼吸器外科 2) 呼吸器科 3) 病理科 4) 内科	肺癌 58(3): 211-215, 2018	von Recklinghausen病に合併 した悪性末梢神経鞘腫術後の高 悪性度肺転移の1切除例
白幡 康弘 ¹⁾ , 太田 依璃子 ¹⁾ , 永井 佑 ¹⁾ , 白井 賢司 ¹⁾ , 坂本 薫 ¹⁾ , 大滝 雅博 ²⁾ , 鈴木 聰 ¹⁾ , 三科 武 ¹⁾	1) 外科 2) 小児外科	日本病院総合診療医学会雑誌 14(5):514-517, 2018	急性腹症を呈した侵襲性肺炎球 菌の1例

II. 学会発表

氏名	所属科	演題	学会名	開催地	月日
上村 一成, 後藤 真一, 日向野 行正, 浦川 貴朗, 細野 泰照, 田中 裕貴, 藤田 裕, 湧井 純一	整形外科	診断に穿刺細胞診が有用 だった示指末節骨内類上 皮囊腫の1例	第232回新潟整形外 科研究会	新潟市	2018.1.20
武石 越郎 ¹⁾ , 斎藤 大輔 ¹⁾ , 本間 克彦 ¹⁾ , 林 孝文 ²⁾	1) 鶴岡市立莊内病 院 歯科口腔外科 2) 新潟大学大学院 医歯学総合研究科 顎顔面放射線学分 野	口底部に発生した神經鞘 腫の1例	第36回日本口腔腫瘍 学会総会	新潟市	2018.1.25 - 26
田中 裕貴, 浦川 貴朗, 湧井 純一, 藤田 裕, 細野 泰照, 上村 一成, 日向野 行正, 後藤 真一	整形外科	脊椎に発生したランゲル ハンス細胞組織球症(L CH)の2例	第28回東北脊椎外科 研究会	仙台市	2018.1.27
大瀧 志保	看護部	排泄障害を持つ児の就学 支援	第35回日本排泄・ス トーマリハビリテー ション学会	札幌市	2018.2.23 - 24
太田 依璃子, 白幡 康弘, 永井 佑, 白井 賢司, 坂本 薫, 鈴木 聰, 三科 武	外科	胆管癌出血による血腫性 胆道閉塞に対してメタリッ クステントにて減黄し, 手術出来た1例	第54回日本腹部救急 医学会総会	東京	2018.3.7 - 8
白幡 康弘 ¹⁾ , 太田 依璃子 ¹⁾ , 永井 佑 ¹⁾ , 白井 賢司 ¹⁾ , 坂本 薫 ¹⁾ , 鈴木 聰 ¹⁾ , 三科 武 ¹⁾ , 大滝 雅博 ²⁾	1) 外科 2) 小児外科	急性腹症を呈した侵襲性 肺炎球菌の1例	第54回日本腹部救急 医学会総会	東京	2018.3.7 - 8
井上 京子	看護部	ストーマサイトマーキン グの実践評価	第32回東北ストーマ リハビリテーション 研究会	山形市	2018.3.17
鈴木 聰 ¹⁾ , 坂本 薫 ¹⁾ , 白幡 康弘 ¹⁾ , 白井 賢司 ¹⁾ , 永井 佑 ¹⁾ , 太田 依璃子 ¹⁾ , 三科 武 ¹⁾ , 神田 達夫 ²⁾	1) 鶴岡市立莊内病 院 外科 2) 三条総合病院 外科	進行・再発GISTに対す るイマチニブの治療効果	第118回日本外科学 会	東京	2018.4.6
田中 裕貴, 浦川 貴朗, 湧井 純一, 藤田 裕, 細野 泰照, 上村 一成, 日向野 行正, 後藤 真一	整形外科	骨粗鬆性椎体骨折(OV F)受傷後3週の歩行能 力予測因子	第47回日本脊椎脊髓 病学会	神戸市	2018.4.13
湧井 純一, 日向野 行正, 後藤 真一, 浦川 貴朗, 上村 一成, 細野 泰照, 田中 裕貴, 藤田 裕	整形外科	Vancouver分類 Type B 大腿骨ステム周囲骨 折に対するプレート固定 症例の検討	第115回東北整形外 科災害外科学会	弘前市	2018.4.27

氏名	所属科	演題	学会名	開催地	月日
上村 一成, 後藤 真一	整形外科	手根管症候群における電気生理学的検査結果と患者立脚型評価結果の経時的变化について	第61回日本手外科学会	東京	2018.4.27
和泉 典子, 上林 沙希子, 篠田 太朗, 佐々木 淑江, 工藤 由美, 斎藤 典子, 浜岡 めぐみ, 斎藤 昌子, 小林 拓, 鈴木 聰,	南庄内緩和ケア推進協議会	地域の介護職や居住系施設職員を主な対象とした緩和ケア研修会「緩和ケアを学ぼう会」の評価	第20回日本在宅医学会総会	東京	2018.4.29
林 晃久 ¹⁾ , 新井 啓 ¹⁾ , 古川 絵美 ¹⁾ , 谷 知行 ¹⁾ , 中林 大器 ¹⁾ , 林 雅子 ¹⁾ , 斎藤 なか ¹⁾ , 吉田 宏 ¹⁾ , 君和田 友美 ²⁾ , 小濱 みさき ²⁾ , 白根 礼造 ²⁾	1) 鶴岡市立莊内病院 小児科 2) 宮城県立こども病院 脳神経外科	髄膜炎を繰り返した髄膜脳瘤の一例	第228回日本小児科学会新潟地方会	新潟市	2018.5.12
栗田 香	看護部	手術室外回り看護師の手指衛生実施率向上を目指して	第7回日本感染管理ネットワーク学術集会	仙台市	2018.5.25
荒引 剛, 浦川 貴朗, 藤田 裕, 渋谷 洋平, 穂苅 翔, 上村 一成, 日向野 行正, 後藤 真一	整形外科	若手整形外科医の大腿骨転子部骨折術中被曝量に関する調査	第91回日本整形外科学会	神戸市	2018.5.26
田中 裕貴, 浦川 貴朗, 涌井 純一, 藤田 裕, 細野 泰照, 上村 一成, 日向野 行正, 後藤 真一	整形外科	骨粗鬆性椎体骨折(OVF)受傷後3週の歩行能力予測因子	第91回日本整形外科学会	神戸市	2018.5.26
新井 啓, 松下 仁美, 生駒 尚子, 林 晃久, 田屋 光将, 田中 雅人, 斎藤 なか, 吉田 宏	小児科	当科における食物負荷試験の現状	第108回日本小児科学会山形地方会	山形市	2018.5.27
太田 依璃子, 白幡 康弘, 永井 佑, 白井 賢司, 坂本 薫, 鈴木 聰, 三科 武	外科	A case of primary pancreatic schwannoma with exacerbation of diabetes	第30回日本肝胆膵外科学会	横浜市	2018.6.6-9
百瀬 幸 ¹⁾ , 鈴木 聰 ²⁾ , 三科 武 ²⁾	1) 看護部 2) 外科	がん患者の口腔機能管理を目的とした医科歯科地域連携の取り組みと見えてきた課題	第20回日本医療マネジメント学会	札幌市	2018.6.9
上林 沙希子, 鈴木 聰, 阿部 美知子, 宮崎 隆寛, 和田 美枝, 斎藤 恭子, 門脇 沙姫, 長谷川 千華	鶴岡市立莊内病院 Quality of death と good death を考える会	当院職員のアンケート調査から見えてきた「終末期患者の栄養補給」に関する意識	第23回日本緩和医療学会	神戸市	2018.6.15
松下 仁美	小児科	当科肥満外来	第53回新潟小児内分泌談話会	新潟市	2018.6.15

氏名	所属科	演題	学会名	開催地	月日
荒井 茂美	リハビリテーションセンター	人工膝関節置換術患者の術後理学療法と在院日数の検討 —階段昇降に着目して—	第28回山形県理学療法学術大会	酒田市	2018.6.16
森 和浩	リハビリテーションセンター	当院認知症ケアチームにおける理学療法士の役割と活動報告	第28回山形県理学療法学術大会	酒田市	2018.6.16
宮崎 隆寛	看護部	リンクナース活動による急変対応事例検証の効果	第32回東北救急医学会学術集会	山形市	2018.6.16
池田 悅子	看護部	一時ペーシングが挿入された高齢者患者のせん妄症状の軽減への取り組み	第19回日本認知症ケア学会	新潟市	2018.6.16 -17
太田 依璃子, 白幡 康弘, 永井 佑, 白井 賢司, 坂本 薫, 鈴木 聰 三科 武,	外科	進行盲腸癌と腎細胞癌術後19年目の腎細胞癌肺転移の重複癌に対して同時切除した1症例	第175回東北外科集談会	仙台市	2018.6.23
田中 雅人, 松下 仁美, 田屋 光将, 生駒 尚子, 林 晃久, 新井 啓, 齋藤 なか, 吉田 宏	小児科	当院で経験した新生児・乳児消化管アレルギー4例の検討	第35回山形県周産期・新生児医療研究会	山形市	2018.6.30
田屋 光将	小児科	当科肥満外来受診きっかけとしての「不登校状態」について	第24回山形小児内分泌・代謝研究会	山形市	2018.7.6
上村 一成, 後藤 真一, 日向野 行正, 浦川 貴朗, 土方 啓生, 田中 裕貴, 高木 祥有, 涌井 純一	整形外科	Long PHILOS plateを用いて治療した上腕骨骨幹部長らせん骨折の治療成績	第44回日本骨折治療学会	岡山市	2018.7.7
太田 依璃子, 白幡 康弘, 永井 佑, 白井 賢司, 坂本 薫, 鈴木 聰, 三科 武	外科	当院における閉鎖孔ヘルニア46例の検討	第73回日本消化器外科学会	鹿児島市	2018.7.11 -13
金子 弘美	看護部	看護部リスクマネージャーによる安全ラウンドの効果と課題	第15回医療マネジメント学会山形支部学術集会	山形市	2018.7.21
白幡 沙織	看護部	手術室における手指衛生実施率向上への取り組みーション動画を活用した学習会の効果—	第15回医療マネジメント学会山形支部学術集会	山形市	2018.7.21
富樫 千代美	看護部	ITを活用した認知症の人と家族を支える地域多職種連携	第15回医療マネジメント学会山形支部学術集会	山形市	2018.7.21
涌井 純一, 高木 祥有, 田中 裕貴, 土方 啓生, 上村 一成, 浦川 貴朗, 日向野 行正, 後藤 真一	整形外科	当院で加療した転移性脊椎腫瘍24症例	第45回庄内整形外科医会	鶴岡市	2018.7.21

氏名	所属科	演題	学会名	開催地	月日
斎藤 聖宏	放射線科	最近1年間で経験した後腹膜腫瘍の3例	第43回庄内最上画像研究会	新庄市	2018.9.1
栗本 こすも	看護部	手術部位感染対策についての理解度調査～感染対策リンクナースによる学習会の効果～	第10回J感染制御ネットワークフォーラム	仙台市	2018.9.1
上林 沙希子	看護部	終末期の身の置き所のなさが肝機能低下により起った一事例	第13回庄内緩和医療研究会	酒田市	2018.9.8
富樫 千代美	看護部	認知症ケアチーム活動3年目におけるリンクナース育成の現状と課題	第17回日本看護技術学会学術集会	青森市	2018.9.8 -9
佐藤 敦, 白幡 康弘, 捧 貴幸, 太田 依璃子, 島田 哲也, 坂本 薫, 鈴木 聰, 三科 武	外科	山形県庄内地方における郷土料理による季節性食餌性イレウスの4例	第176回東北外科集談会	仙台市	2018.9.15
三浦 嘉	看護部	褥瘡対策におけるケアの質的量的実態調査からみた新規褥瘡発生の要因分析	第20回日本褥瘡学会学術集会	横浜市	2018.9.28 -29
Satoshi Suzuki, Sakiko Kambayashi, Michiko Abe, Noriko Izumi	Palliative Care Team	View about "How Nutritional Support for Patients in the Terminal Phase Should be". Revealed through Survey of Staff Members Our Hospital	22nd International congress on Palliative Care	Montréal, Canada	2018.10.2 -5
本間 めぐみ	看護部	OFC電子バス移行による経営の質改善の効果	第19回日本クリニカルパス学術集会	函館市	2018.10.12 -13
渡部 美穂	リハビリテーションセンター	急性心筋梗塞地域連携バス運用状況から見えてきた課題	第19回日本クリニカルパス学会学術集会	函館市	2018.10.12 -13
田中 裕貴, 浦川 貴朗, 須田 義裕, 高木 栄有, 土方 啓生, 上村 一成, 日向野 行正, 後藤 真一	整形外科	脊椎に発生した多発性骨髓腫の3例	第46回庄内整形外科医会	酒田市	2018.10.13
鎌田 敬志	薬局	山形県内病院における「低血糖時対応」の調査と課題（ポスター発表）	第7回日本くすりと糖尿病学会学術集会	名古屋市	2018.10.13 -14
大塚 隼人	中央検査科	3機種の全自动免疫測定装置によるTSH、FT3、FT4の比較と乖離検体の検討	第39回山形県医学検査学会	鶴岡市	2018.10.13 -14
石井 佳	看護部	早期介入のための入院時嚥下スクリーニングの効果	第57回全国自治体病院学会	郡山市	2018.10.18 -19

氏名	所属科	演題	学会名	開催地	月日
庄司 敦子	看護部	低鎖肛疾患の小児と家族に対する病院から地域へ繋ぐ関わり	第57回全国自治体病院学会	郡山市	2018.10.18 -19
三浦 良哉	看護部	認定看護師による地域の看護師に向けた教育研修公開の評価	第57回全国自治体病院学会	郡山市	2018.10.18 -19
渡部 泰恵子	看護部	他職種で関わった外国人妊婦の一例	第59回日本母性衛生学会学術集会	新潟市	2018.10.19 -20
齋藤 なか	小児科	庄内南部地域における小児肥満予防対策の変遷と当科肥満外来の関わり	第53回山形県小児保健会研修会	山形市	2018.10.20
生駒 尚子	小児科	当地における小児肥満対策と当科肥満外来の25年	第49回全国学校保健学校医大会	鹿児島市	2018.10.27
伊藤 千加	看護部	抗がん剤曝露対策における看護師による患者・家族指導の実態調査	平成30年度山形県看護研究学会	山形市	2018.11.10
榎本 朋	看護部	NICU看護師によるハイリスク妊婦への産前訪問の取り組み	平成30年度山形県看護研究学会	山形市	2018.11.10
大川 陽	看護部	産褥早期における背部マッサージがもたらす疲労改善効果 —マッサージ前後での自覚症状を比較して—	平成30年度山形県看護研究学会	山形市	2018.11.10
白幡 光穂	看護部	化学療法患者の感染予防行動の確立に向けた視覚的アプローチ —手洗いチェックー使用前後の変化—	平成30年度山形県看護研究学会	山形市	2018.11.10
本間 春圭	看護部	脊椎圧迫骨折で入院した患者の入院日数短縮に向けた取り組み —入院棟での歩行練習を行って—	平成30年度山形県看護研究学会	山形市	2018.11.10
鎌田 敬志	薬局	「インクレチン、SGLT2阻害薬」と「SU薬、グリニド薬、インスリン注射薬」の組合せ処方の調査と課題	第56回日本糖尿病学会東北地方会	仙台市	2018.11.17
富樫 敦子	薬局	糖尿病患者においてプロポフォールによる血糖コントロールへの影響が考えられた1症例 (ポスター発表)	第28回日本医療薬学会年会	神戸市	2018.11.23 -25

氏名	所属科	演題	学会名	開催地	月日
田中 雅人, 松下 仁美, 田屋 光将, 生駒 尚子, 林 晃久, 新井 啓, 齋藤 なか, 吉田 宏	小児科	超音波検査が診断に有用 であった先天性サイトメ ガロウイルス (CMV) 感染症の1例	第110回日本小児科 学会山形地方会	山形市	2018.11.25
白幡 康弘, 北岡 匠, 佐藤 克成, 捧 貴幸, 佐藤 敦, 太田 依璃子, 島田 哲也, 坂本 薫, 鈴木 聰, 三科 武	外科	山形県庄内地方における 郷土料理である孟宗汁に による地域性・季節性食餌 性イレウスの4例	第37回庄内医師集談 会	酒田市	2018.11.25
田中 裕貴, 浦川 貴朗, 須田 義裕, 高木 祥有, 土方 啓生, 上村 一成, 日向野 行正, 後藤 真一	整形外科	脊椎に発生した多発性骨 髓腫の3例	第234回新潟整形外 科研究会	新潟市	2018.12.1
大滝 雅博	小児外科	当科で葛西手術を施行し た胆道閉鎖症3例につい て	第283回新潟外科集 談会	新潟市	2018.12.1
吉田 宏, 田中 雅人, 松下 仁美, 田屋 光将, 生駒 尚子, 林 晃久, 新井 啓, 齋藤 なか	小児科	超音波検査が診断に有用 であった先天性サイトメ ガロウイルス感染症の1 例	第35回庄内周産期懇 話会	鶴岡市	2018.12.1
渡部 美穂	リハビリテーション センター	多職種連携により再入院 を回避できた重症心不全 の1例	第1回庄内心臓リハ ビリテーション研究 会	酒田市	2018.12.4
大滝 雅博	小児外科	Complicated appendici- tis に対する内視鏡手術 小児Interval appendec- tomy におけるDrop out症例の検討	第31回日本内視鏡外 科学会総会	福岡市	2018.12.6 -8
生駒 尚子 ¹⁾ , 松下 仁美 ¹⁾ , 田屋 光将 ¹⁾ , 林 晃久 ¹⁾ , 田中 雅人 ¹⁾ , 新井 啓 ¹⁾ , 齋藤 なか ¹⁾ , 吉田 宏 ¹⁾ , 入月 浩美 ²⁾ , 小澤 淳一 ²⁾	1) 鶴岡市立庄内病 院 小児科 2) 新潟大学医歯学 総合病院 小児科	WPW症候群による頻脈 性不整脈を契機に診断に 至ったLeigh脳症	第229回日本小児科 学会新潟地方会	新潟市	2018.12.8

III. 院 外 講 演

氏名	所属科	演題	講演会名	月日
五十嵐 康郎	薬局	当院の認知症ケアチーム該当患者におけるラメルテオンの使用状況	平成29年度山形県病院薬剤師会庄内ブロック研修会	2018.1.13
吉田 宏	小児科	生活リズムとメディア接触	すこやかネット出前子育て懇談会 in 広瀬小学校	2018.2.6
谷 知行	小児科	小児救急とバイタルサイン	平成29年度鶴岡地区医師会小児救急講習会	2018.2.22
植村 奈緒瑠	薬局	当院における疑義照会を考察する	第64回山形県薬学会大会	2018.3.4
鈴木 聰	外科 緩和ケアサポートセンター鶴岡・三川センター長	がん緩和ケア『庄内プロジェクト』で地域はどのように変わったか	スキルをみがく地域医療連携実践ゼミナール 株式会社瀬尾医療連携事務所	2018.3.13
新井 啓	小児科	食物アレルギーについての研修会	鶴岡市立藤島中学校	2018.4.5
鈴木 聰	外科	進行・再発GISTに対する治療戦略	鶴岡地区医師会消化器病懇話会	2018.5.21
武石 越郎	歯科口腔外科	口腔癌治療後の嚥下障害について	庄内プロジェクト主催緩和ケアスキルアップ研修会	2018.6.20
和泉 典子	内科 緩和ケアチーム/南庄内緩和ケア推進協議会	最期まで自分らしく生きるためにー自分や大切な人の「人生観」や「もしものとき」を話し合うことで、今を大切に生きようー	鶴岡市保健衛生推進連合会総会	2018.6.22
富樫 敦子	薬局	プロポフォールの術後血糖コントロール不良への影響が考えられた1症例	第9回庄内薬剤師糖尿病講演会	2018.6.23
和嶋 和子	中央検査科	認定血液検査技師を目指して	第1回山形県臨床血液部門研修会 山形市	2018.6.23
吉田 宏	小児科	小児救急疾患への対応	平成30年度小児救急医療講習会 in 大泉保育園	2018.6.29
和泉 典子	内科 緩和ケアチーム	回復の見込みがない病いによる「耐えがたい苦痛」にどう対応するか ー緩和ケアと終末期の意思決定ー	山形県立鶴岡南高等学校英語ディベート大会出場1~2年生有志	2018.7.6
吉田 宏	小児科	クラゲ刺傷について ーカギノテクラゲを中心にー	平成30年度クラゲマイスター養成講座	2018.7.7
新井 啓	小児科	小児救急疾患への対応	平成30年度小児救急医療講習会 in いなば幼稚園	2018.7.12
和泉 典子	鶴岡市役所産業医 内科 緩和ケアチーム	過重労働とメンタルヘルス-みんながいきいき働くために-	鶴岡市役所管理職向けメンタルヘルス研修	2018.7.26
和泉 典子	内科 緩和ケアチーム	最期まで自分らしく生きる ー本人の意向を尊重するためのアドバンス・ケア・プランニングー	2018年度第1回病院勤務医と医師会会員との懇談会	2018.7.27

氏名	所属科	演題	講演会名	月日
吉田 宏	小児科	子どもの発育と病気について (母乳育児、早寝早起き、メディアとのつきあい方含め)	平成30年度鶴岡市子育てサポーター基礎講習	2018.8.28
澤井 寛子	栄養科	高齢者糖尿病の食事について	第1回鶴岡市自立支援促進研修会	2018.9.21
富樫 博子	栄養科	災害時のための簡単パッククリッピング	やまがた健康フェア2018	2018.9.22
吉田 宏	小児科	成長期の子どもをどう見守るか —メディアと生活リズムの乱れ、そして子どもの不定愁訴—	すこやかネット出前子育て懇談会 in 鶴岡第五中学校	2018.10.11
富樫 敦子	薬局	キズと薬	日本褥瘡学会第12回山形県在宅褥瘡セミナー	2018.10.20
鎌田 敬志	薬局	糖尿病の基本治療と療養指導 薬物療法(内服薬)	平成30年度第1回山形県糖尿病療養指導士認定講習会	2018.10.28
五十嵐 健文	リハビリテーションセンター	運動で生活習慣坊を予防しよう	第10回市民公開セミナー天腎祭	2018.10.28
池田 浩徳	リハビリテーションセンター	症例検討方法論	山形県理学療法士会生涯学習部第3回研修会	2018.11.5
和泉 典子	内科 緩和ケアチーム 南庄内緩和ケア推進協議会	最期まで自分らしく生きるためにー自分や大切な人の「人生観」や「もしものとき」を話し合うことで、今を大切に生きようー	鶴岡市第6学区ふれあい健康講座	2018.11.10
植村 奈緒瑠	薬局	当院産婦人科における血糖管理	平成30年度山形県病院薬剤師会庄内ブロック研修会	2018.11.10
生駒 尚子	小児科	小児疾患と救急対応	平成30年度山形県消防学校救急科	2018.11.14
瀬尾 章央	リハビリテーションセンター	腰痛予防と適切な介助方法について	しおん荘職員研修会	2018.11.14
齋藤 なか	小児科	小児救急疾患への対応	平成30年度小児救急医療講習会 in 大山保育園	2018.11.22
森 和浩	リハビリテーションセンター	急性期病院における認知症ケアチームの取り組み/先進施設報告	平成30年度山形県理学療法士会第6回庄内支部勉強会	2018.11.22
富樫 博子	栄養科	栄養管理総合演習	東北女子大学講義	2018.12.6
吉田 宏	小児科	子どもの健康とメディアとの関係	すこやかネット出前子育て懇談会 in 渡前小学校	2018.12.7
吉田 宏	小児科	新生児疾患と救急対応	平成30年度山形県消防学校救急科	2018.12.10
和泉 典子	内科 緩和ケアチーム 鶴岡市役所産業医	がんとともに働く・生きるー病院医師・産業医の視点からー	鶴岡みらい健康調査セミナー	2018.12.16
富樫 博子	栄養科	消化管術後・がん患者の栄養管理の実際	鶴岡地区薬剤師会生涯教育	2018.12.19

IV. 院内各種研修会

氏名	所属科	演題	研修会名	月日
古川 絵美	小児科	平成29年10月から12月までの紹介患者 経過報告	第102回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.1.25
林 晃久	小児科	メトクロラミドが原因と思われる急性ジストニアの一例	第102回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.1.25
中林 大器	小児科	梨状窩瘻が疑われている頸部膿瘍の一例	第102回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.1.25
谷 知行	小児科	胆石発作を契機に診断された先天性胆道拡張症の一例	第102回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.1.25
新井 啓	小児科	当科における経口免疫療法について	第102回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.1.25
林 雅子	小児科	最近の抄読会から	第102回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.1.25
斎藤 光典	放射線画像センター	この差ってなんですか?-1.5Tと3T-	放射線画像センター学習会	2018.1.25
佐藤 田鶴	栄養科	食中毒予防のためのノウハウ -病院での取り組みから-	ICT全職員対象研修会	2018.1.26
佐藤 田鶴	栄養科	食中毒予防のためのノウハウ -病院での取り組みから-	ICT全職員対象研修会	2018.2.5
和泉 典子	内科 緩和ケアチーム	厚生労働省「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」を知っていますか	緩和ケアステップアップ講座	2018.2.15
落合 一美	放射線画像センター	教科書とは違う実践の面白さ	放射線画像センター学習会	2018.2.20
阿部 和人	薬局	事例から学ぶ最近の医薬品医療過誤	第2回医療安全研修会 平成29年度医薬品安全管理研修会	2018.2.22
吉田 諒	薬局	The anticholinergic risk scale and anticholinergic adverse effects in older persons. (JAMA Internal Medicine 2008 Mar10;168(5):508-513)	薬局 抄読・勉強会	2018.3.14
蛸井 瞳紀	放射線画像センター	医療安全についてーインシデント・アクシデント報告のすすめー	放射線画像センター学習会	2018.3.19
斎藤 聖宏	放射線科	放射線被ばく対策	研修医オリエンテーション兼平成30年度教育訓練	2018.4.2
清野 由利, 鎌田 敬志, 富樫 敦子	薬局	薬剤の安全な取り扱いについて	平成30年度看護部新採用者研修会	2018.4.6
五十嵐 康郎	薬局	認知症ケアチームが提案する薬について	認知症ケアに関する研修会	2018.4.24
上竹 俊介	放射線画像センター	検診結果の観かた	放射線画像センター学習会	2018.4.25

氏名	所属科	演題	研修会名	月日
生駒 尚子	小児科	平成30年1月から3月までの紹介患者経過報告	第103回莊内病院小児科病診連携研究会	2018.4.26
林 晃久	小児科	両側気胸をきたし人工呼吸器管理を行ったヒトメタニューモウイルス感染症の1例	第103回莊内病院小児科病診連携研究会	2018.4.26
松下 仁美	小児科	リンパ濾胞過形成とされていたメッケル憩室の1例	第103回莊内病院小児科病診連携研究会	2018.4.26
田中 雅人	小児科	最近経験した乳児消化管アレルギーの4例	第103回莊内病院小児科病診連携研究会	2018.4.26
新井 啓	小児科	当科におけるクリニカルパス導入後の経口食物負荷試験の集計	第103回莊内病院小児科病診連携研究会	2018.4.26
吉田 宏	小児科	最近の抄読会から	第103回莊内病院小児科病診連携研究会	2018.4.26
難波 公大	放射線画像センター	障害者差別解消法について	放射線画像センター学習会	2018.5.14
和泉 典子	内科 緩和ケアチーム	本人の意向に沿った人生の最終段階における意思決定を支えるために－厚生労働省「人生の最終段階における医療・絵かの決定プロセスに関するガイドライン（平成30年3月改訂版）」を知っていますか。	2018年度第1回庄内プロジェクト 緩和ケアを学ぼう会	2018.6.5
五十嵐 健文	リハビリテーションセンター	雨の日でもできる効果的な運動療法	糖尿病教室	2018.6.8
草島 宏平	薬局	Population pharmacokinetics and Monte Carlo Dosing simulations of Meropenem during the Early Phase of severe Sepsis and Septic and Septic shock In critically Ill patients In Intensive Care Units (PMID:25753628.Jaruratanasirikul S .et al.Antimicrob Agents Chemother.2015;59(6):2995-3001)	薬局 抄読・勉強会	2018.6.13
齋藤 加恵, 佐太木 淳一	リハビリテーションセンター	肺の音を聴いてみよう	平成30年度RST委員会第1回院内学習会	2018.6.15
高橋 直子	薬局	痛みの評価とオピオイドの基礎	第1回緩和ケアステップアップ講座	2018.6.21
佐藤 大樹	放射線画像センター	CTの診断参考レベルについて	放射線画像センター学習会	2018.6.26
植村 奈緒瑠	薬局	経腔分娩時の縫合処置後の傷の痛みと後陣痛に使用するトラムセットの授乳への影響について	薬局 抄読・勉強会	2018.7.11
高橋 裕美	中央検査科	栄養アセスメントに用いられる検査値について	リンクナース委員会	2018.7.11
小林 拓	リハビリテーションセンター	リンパ浮腫について－理学療法士の立場から－	第2回緩和ケアステップアップ講座	2018.7.19

氏名	所属科	演題	研修会名	月日
松下 仁美	小児科	平成30年4月から6月までの紹介患者経過報告	第104回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.7.26
林 晃久	小児科	当院における乳児血管腫に対するプロプラノロールシロップの使用経験	第104回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.7.26
生駒 尚子	小児科	WPW症候群が原因で発作性上室性頻拍を発症した3か月乳児例	第104回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.7.26
田屋 光将	小児科	成長障害と亜鉛欠乏	第104回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.7.26
新井 啓	小児科	最近経験したFPIESの2例	第104回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.7.26
田中 雅人	小児科	最近の抄読会から	第104回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.7.26
大池 裕貴	薬局	Direct Oral Anticoagulants Vs. Enoxaparin for Prevention of Venous Thromboembolism Following Orthopedic Surgery: A Dose-Response Meta-analysis (Clinical and Translational Science 2017 Jul; 10(4):260-270.)	薬局 抄読・勉強会	2018.8.8
佐藤 克之	放射線画像センター	胸部単純写真・CT画像の画像解剖	放射線画像センター学習会	2018.10.25
林 晃久	小児科	平成30年7月から9月までの紹介患者経過報告	第105回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.11.2
田屋 光将	小児科	2018年上半期のウイルス分離検査について	第105回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.11.2
田中 雅人	小児科	先天性サイトメガロウイルス感染症の1例	第105回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.11.2
生駒 尚子	小児科	遷延する代謝性アシドーシスよりミトコンドリア病と診断した1例	第105回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.11.2
新井 啓	小児科	水痘帯状疱疹ウイルス髄膜炎の1例	第105回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.11.2
齋藤 なか	小児科	庄内南部地域における小児肥満予防対策の変遷と当科肥満外来の関わり	第105回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.11.2
吉田 宏	小児科	最近の抄読会から	第105回荘内病院小児科病診連携研究会	2018.11.2
佐太木 淳一	リハビリテーションセンター	押さえておきたい運動指導の基礎とミソ	平成30年度糖尿病委員会 第2回院内研修会	2018.12.4
齋藤 加恵, 佐太木 淳一	リハビリテーションセンター	肺の音を聴いてみよう	平成30年度RST委員会第2回院内学習会	2018.12.14
久保 真菜子	放射線画像センター	骨盤計測について	放射線画像センター学習会	2018.12.18

キャンサートリートメントボード

日時：毎月第一水曜日、17：00-18：00

2017年

第一回 2017/11/01 201会議室

症例	1. 高度進行直腸癌（56歳、男性） 2. 原発不明がん（61歳、男性） 3. 上顎歯肉癌（68歳、女性） 4. 原発不明がん（67歳、男性）	発表医師（科） 太田 依璃子（外科） 坂本 薫（外科） 武石 越郎（歯科口腔外科） 佐藤 昇（呼吸器科）
----	--	--

参加者：38名

（内訳）医師18名、研修医1名、看護師13名、放射線技師3名、PT・OT 1名、事務2名

コメンテーター：福井 忠久（山大腫瘍内科）、佐藤 啓（山大放射線治療科）

第二回 2017/12/06 講堂

症例	1. 進行脾癌（66歳、男性） 2. 後腹膜肉腫（79歳、女性） 3. 原発不明がん（76歳、男性） 4. 大腸癌（71歳、男性）	発表医師（科） 白幡 康弘（外科） 鈴木 聰（外科） 臼井 賢司（外科） 坂本 薫（外科）
----	--	---

参加者：28名

（内訳）医師12名、研修医3名、看護師7名、放射線技師2名、PT・OT 2名、事務2名

コメンテーター：福井 忠久（山大腫瘍内科）、佐藤 啓（山大放射線治療科）

2018年

第三回 2018/01/10 講堂

症例	1. 直腸癌再発（71歳、男性） 2. 直腸癌再発（54歳、男性） 3. 小腸G I S T再発（69歳、女性） 4. 直腸癌再発（82歳、男性）	発表医師（科） 坂本 薫（外科） 鈴木 聰（外科） 鈴木 聰（外科） 坂本 薫（外科）
----	--	---

参加者：20名

（内訳）医師9名、看護師6名、放射線技師2名、PT・OT 1名、事務2名

コメンテーター：福井 忠久（山大腫瘍内科）、佐藤 啓（山大放射線治療科）

第四回 2018/02/07 301・302会議室

症例	1. 腹膜癌（66歳、女性） 2. 非小細胞肺がん（64歳、男性） 3. 胸部中部食道癌（68歳、男性） 4. 前縦隔腫瘍（90歳、女性）	発表医師（科） 五十嵐 裕一（婦人科） 佐藤 昇（呼吸器科） 鈴木 聰（外科） 正岡 俊明（呼吸器外科）
----	--	--

参加者：28名

（内訳）医師10名、研修医1名、看護師12名、放射線技師2名、医学生1名、事務2名

コメンテーター：福井 忠久（山大腫瘍内科）、佐藤 啓（山大放射線治療科）

第五回 2018/03/07 201会議室

症例 1.	前縫隔腫瘍（33歳、男性）	発表医師（科） 正岡 俊明（呼吸器外科）
2.	S状結腸癌再発（69歳、男性）	鈴木 聰（外科）
3.	乳がん再発（89歳、女性）	鈴木 聰（外科）
4.	男性副乳癌（76歳、男性）	臼井 賢司（外科）

参加者：34名

（内訳） 医師13名、研修医2名、看護師11名、薬剤師1名、PT・OT1名、放射線技師2名、検査技師2名、事務2名

コメンテーター：福井 忠久（山大腫瘍内科）、佐藤 啓（山大放射線治療科）

第六回 2018/04/04 講堂

症例 1.	子宮体癌再発疑い（63歳、女性）	発表医師（科） 戸田 紀夫（婦人科）
2.	S状結腸癌（58歳、男性）	鈴木 聰（外科）
3.	直腸癌再発（78歳、女性）	坂本 薫（外科）

参加者：32名

（内訳） 医師13名、研修医3名、看護師11名、PT・OT1名、放射線技師1名、事務3名

コメンテーター：武田 弘幸（山大腫瘍内科）、佐藤 啓（山大放射線治療科）

第七回 2018/05/02 201会議室

症例 1.	腹膜癌再発（60歳、女性）	発表医師（科） 戸田 紀夫（婦人科）
2.	直腸癌再発術後（54歳、男性）	白幡 康弘（外科）
3.	肺癌術後、肺癌疑い（65歳、男性）	正岡 俊明（呼吸器外科）

参加者：34名

（内訳） 医師17名、研修医2名、看護師9名、PT・OT1名、放射線技師2名、事務3名

コメンテーター：武田 弘幸（山大腫瘍内科）、佐藤 啓（山大放射線治療科）

第八回 2018/06/06 講堂

症例 1.	S状結腸癌（63歳、女性）	発表医師（科） 坂本 薫（外科）
2.	ステロイド細胞腫瘍再発（52歳、女性）	高柳 健史（婦人科）
3.	胃癌（73歳、男性）	佐藤 敦（外科）
4.	胃癌再発（80歳、男性）	鈴木 聰（外科）

参加者：36名

（内訳） 医師16名、研修医2名、看護師13名、放射線技師2名、医学生1名、事務2名

コメンテーター：武田 弘幸（山大腫瘍内科）、佐藤 啓（山大放射線治療科）

第九回 2018/07/04 講堂

症例 1.	原発不明がん（71歳、女性）	発表医師（科） 佐藤 昇（呼吸器科）
2.	腹膜癌（66歳、女性）	五十嵐 裕一（婦人科）
3.	乳がん（71歳、女性）	鈴木 聰（外科）
4.	原発不明転移性脳腫瘍（66歳、男性）	佐藤 昇（呼吸器科）

参加者：28名

（内訳） 医師11名、研修医1名、看護師10名、放射線技師3名、事務3名

コメンテーター：武田 弘幸（山大腫瘍内科）、佐藤 啓（山大放射線治療科）

第十回 2018/08/01 201介護室

症例 1. 胃癌、肺転移（80歳、男性）
2. 子宮体癌（63歳、女性）

発表医師（科） 鈴木 聰（外科）
矢野 亮（婦人科）

参加者：26名

(内訳) 医師11名、看護師9名、薬剤師2名、放射線技師3名、事務1名

コメンテーター：武田 弘幸（山大腫瘍内科）、佐藤 啓（山大放射線治療科）

第十一回 2018/09/05 201会議室

症例 1. 胃癌、血液疾患（82歳、男性）
2. 大腸癌再発（70歳、男性）
3. 大腸癌再発、閉塞性黄疸（61歳、女性）
4. 原発不明がん（41歳、女性）

発表医師（科） 鈴木 聰（外科）
鈴木 聰（外科）
坂本 薫（外科）
宮澤 弘哲（消化器科）

参加者：20名

(内訳) 医師7名、看護師8名、放射線技師2名、医学生1名、事務2名

コメンテーター：武田 弘幸（山大腫瘍内科）、佐藤 啓（山大放射線治療科）

第十二回 2018/10/03 講堂

症例 1. 後腹膜肉腫再発術後（79歳、女性）
2. 十二指腸癌疑い（60歳、女性）
3. 甲状腺乳頭がん再々発（71歳、女性）

発表医師（科） 太田 依璃子（外科）
捧 貴幸（外科）
坂本 薫（外科）

参加者：24名

(内訳) 医師11名、研修医1名、看護師6名、放射線技師2名、PT・OT1名、医学生1名、事務2名

コメンテーター：福井 忠久（山大腫瘍内科）、佐藤 啓（山大放射線治療科）

第十三回 2018/11/07 講堂

症例 1. S状結腸癌（72歳、男性）
2. 直腸腫瘍（79歳、男性）
3. 食道胃接合部癌再発（71歳、男性）
4. 卵巣癌再発（71歳、女性）
5. 胃癌、卵巣腫瘍（51歳、女性）

発表医師（科） 鈴木 聰（外科）
捧 貴幸（外科）
坂本 薫（外科）
矢野 亮（婦人科）
矢野 亮（婦人科）

参加者：29名

(内訳) 医師13名、研修医3名、看護師8名、放射線技師2名、PT・OT1名、事務2名

コメンテーター：福井 忠久（山大腫瘍内科）、佐藤 啓（山大放射線治療科）

第十四回 2018/12/05 講堂

症例 1. 子宮頸癌2b期（69歳、女性）
2. 卵巣癌疑い（76歳、女性）

発表医師（科） 五十嵐 裕一（婦人科）
矢野 亮（婦人科）

参加者：33名

(内訳) 医師13名、研修医1名、看護師10名、薬剤師1名、放射線技師3名、PT・OT2名、事務3名

コメンテーター：武田 弘幸（山大腫瘍内科）、佐藤 啓（山大放射線治療科）

〔看護部〕

平成30年度看護部研修会

分 区	研修コース	期 日	研修内 容
必 須 研 修	新採用者研修	4月2日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・病院施設見学
		4月3日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・看護部教育計画と新採用者教育について 講師：前看護部教育委員長 看護係長 阿部 仁美 ・看護部長講話：副院長兼看護部長 佐藤 さゆり ・講義：「勤務にあたってのオリエンテーション」 講師：看護副部長兼看護主幹 鈴木 郁 ・講義：「看護師としての倫理とは」 講師：看護部倫理委員長 看護主査 斎藤 恒子
		4月5日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：医療事故予防対策について 講師：看護主査 牧 順 ・講義：「医療機器の安全な取り扱い方」 講師：看護主査 牧 順 看護主任 三浦 良哉
		4月6日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「当院の地域医療連携及び退院調整について」 講師：地域医療連携室 看護主査 富樫 清 ・講義：「安全に輸血を行うために－当院の輸血手順－」 講師：輸血療法委員 統括看護主幹 佐藤 順 ・講義：「薬剤の安全な取り扱いについて」 講師：薬局長 清野 由利 薬剤主査 鎌田 敬志 薬剤師 富樫 敦子
		4月9日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「医療従事者に必要な感染対策の基本」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子 看護係長 栗田 香
		4月10日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・S-HIS 看護システムについて ・講義：「外来から入院までの流れ」 講師：統括看護主幹 丸山 邦 ・講義：「看護システム（記録）について」 講師：看護記録委員 看護主任 菅原 美代威 ・講義：「看護診断・記録の実際について」 講師：看護記録委員会 看護主査 佐藤 裕美 ・講義：「看護必要度について」 講師：看護記録委員会長 看護係長 大瀧 志保 看護係長 瀧川 祥子 ・演習：「入院棟での電子カルテ操作練習」 フロア担当：入院棟記録委員
		4月13日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・採血・注射技術研修 講師：看護業務委員（手順） 教育委員 ・講義：「注射の安全について」 講師：看護主任 渡部 美紀 ・講義：「注射の業務マニュアル」 講師：看護主任 渡部 美紀 ・講義：「皮下注射・筋肉注射について」 講師：新採指導者 高橋 真紀 高橋 知枝 ・講義：「採血・静脈注射について」 講師：新採指導者 長谷川 智子 工藤 真希
		4月13日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・採血・皮下・筋肉・静脈注射の実技演習 講師：看護主任 佐藤 靖子 看護新採指導者 佐藤 知子 工藤 真希

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修		4月16日(月)	・講義「安全な移動と体位」 講師：PT 五十嵐 健文
		5月15日(火)	・講義：「退院調整について」 講師：地域医療連携室 渋谷 文子 ・講義：「医療従事者に必要な安全対策の基本」 講師：医療安全管理室 看護係長 金子 弘美
		5月22日(火)	出張 新人研修Ⅰ 看護専門職の第一歩－新しい環境に適応しよう－
		8月17日(金)	出張 新人研修Ⅱ 医療安全と感染防止 －ルールを守ってリスク感性を高めよう－
		10月30日(火)	出張 新人研修Ⅲ 倫理を踏まえた看護実践 －2年目に向けてステップアップ－
		6月6日(水)	・講義：「看護ケアに活かすための感染予防策」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		6月18日(月)	・講義・演習：「胃瘻・腸瘻について」「胃管カテーテル挿入の実際」 講師：摂食・嚥下ケア認定看護師 石井 佳 ・講義・演習：「食事介助・口腔ケアについて」 講師：摂食・嚥下ケア認定看護師 石井 佳 歯科口腔衛生士 石垣 佑美
		6月20日(水)	・講義：「メンタルヘルスケアについて」 講師：臨床心理士 柏倉 貢 ・演習：「今の自分を振り返り、表現してみませんか」 講師：教育委員 ・講義：「ワークライフバランスについて」 講師：kaeru委員会 委員長 看護主査 山口 ゆかり
		7月25日(木)	・講義・演習：「排尿に対する看護援助・導尿技術研修」 講師：皮膚排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子 排尿ケアチーム 加藤 愛 榎本 真由美 ・講義・演習：「体位変換・スキンケア」 講師：皮膚・排泄認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		9月13日(木)	・講義：「フィジカルアセスメント」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉 ・講義：「救急看護」 講師：救急看護認定看護師 看護主任 宮崎 隆寛
		9月27日(木)	・2年目ナースからのメッセージ：横山 愛 太田 なつみ ・グループワーク『明日からの看護実践にどう活かしていくか』
		10月12日(金)	・講義：「緩和ケアの基礎」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 阿部 美知子 ・講義：「認知症ケアにおけるコミュニケーションの基本」 講師：認知症ケア認定看護師 看護主任 富樫 千代美
		平成31年 1月31日(木)	1年の振り返り研修 ・レポート発表 新卒新人『担当患者との関わりからの学んだこと、今後の課題』 既卒新人『1年を通して学んだこと』
		平成31年 1月31日(木)	・先輩ナースからのメッセージ 3年目ナース：三浦 瑞衣 中堅ナース：三浦 葉月 リーダーナースⅠ：五十嵐 佐知 リーダーナースⅡ：阿部 博子 ・新卒新人：グループワーク『2年目ナースとしての取り組み』

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修	新採指導者研修	4月9日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション 新採用者・2年目研修内容・チェックリストの説明 既卒者の研修についてオリエンテーション 講師：教育委員長 看護主査 山口 朱美 ・講義：「成人の学習に対する基礎知識」 講師：臨床指導委員会 看護主任 佐藤 早苗 ・新採用者との企画について
		5月28日(月)	出張 実地指導者研修Ⅰ 不安を自信に変える －新人指導に必要な基礎知識－
		6月19日(火)	出張 実地指導者研修Ⅱ 「教える人」としての私を育てる。 －共育を学ぼう－
		6月1日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習 「新採用者が起こしやすいヒヤリハットについて」 講師：医療安全管理室 看護係長 金子 弘美
		10月11日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育担当者企画研修 講義：「新人看護師の社会人基礎力の育成」 講師：看護係長 澤川 祥子 グループワーク：社会人基礎力の想像力を育成するロジックツリー
	教育担当者研修	平成31年 2月8日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・1年の振り返り研修 成果発表会「1年間の指導を振り返って」 ・グループワーク 「部署における新人看護師への指導の課題」
		4月5日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「職場における教育担当者としての役割」 講師：看護部教育委員長 看護主査 山口 朱美 ・講義：「教育担当者の役割の実際について」 昨年度の活動報告 講師：看護部看護教育委員 看護係長 阿部 裕子 ・講義：「新採指導における看護実践基準の活用」 講師：看護業務委員長 看護係長 斎藤 真紀
		10月11日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育担当者企画研修 講義：「新人看護師の社会人基礎力の育成」 講師：看護係長 澤川 祥子 グループワーク：社会人基礎力の想像力を育成するロジックツリー
		4月12日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・2年目ナース研修年間計画についての説明 ・講義：「2年目ナースの役割と心得・メンバーシップとは」 講師：看護部教育委員 看護主任 伊藤 智子 ・グループワーク『2年目ナースとして求められること』
		5月28日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「倫理的視点を持った看護記録」 講師：看護記録委員 看護係長 澤川 祥子 ・講義：「痛みの定義・疼痛治療の5原則・WHO3段階除痛ラダー・オピオイドの種類の副作用とその対策」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 上林 沙希子 看護係長 阿部 美知子
	2年目ナース研修	7月11日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「褥瘡ケア・予防対策・演習」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子 ・講義：医療関連感染(HAI)について 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		9月21日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「フィジカルアセスメント」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
必 須 研 修	3年目ナース研修	11月6日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「アサーティブコミュニケーション」 講師：看護主査 船見 美和子 ・講義：「フィッシュ！哲学」 講師：看護係長 齋藤 美子 ・ナラティブ「心に残った看護体験を書いてみよう」
		10月10日（水） ↓ 10月20日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修（集中治療センター、手術センター） <ul style="list-style-type: none"> 1) 手術中の全身管理と看護 2) 基本的な看護技術・フィジカルアセスメント等を習得する 3) 術後の全身管理、輸液、輸血管理、輸液ポンプ管理・ドレーン管理 4) 急性期における疾患患者の基本的看護技術の習得
		12月 6 日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「災害看護を学ぶ」 講師：講師：DMAT 山口 慎太郎
		平成31年 2月 7 日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・実践レポート発表「後輩育成に活かす自分の役割」 ・3年目へ向けての決意表明・発表
		4月12日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・3年目ナース研修オリエンテーション ・研究計画書の記載方法や研究集録の記載方法 講師：看護部教育委員会 看護主任 伊藤 智子
		7月17日（火）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「メンバーシップ、リーダーシップとは」 講師：看護部教育委員会 看護係長 本間 千春 ・講義：「問題解決能力について」 講師：看護部教育委員会 看護係長 板垣 朋子 ・グループワーク：「チーム活動で悩んでいることを解決していくには」
		9月 6 日（木）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「3年目の医療安全について」 講師：看護係長 小野寺 紀子 ・事例研究について 担当：教育委員会 看護係長 板垣 朋子
		8月 9 日（木）	出張 救急看護Ⅰ 心電図が好きになる！－ニガテ意識をくクリアに!!－
		12月15日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「認知症の理解」 講師：認知症看護認定看護師 看護主任 富樫 千代美 ・講義：「これからの過ごし方と家族のケア・看取りの看護」 講師：緩和ケア認定看護師 看護係長 阿部 美知子 緩和ケア認定看護師 看護主任 上林 沙希子
		平成31年 1月11日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・事例研究発表 ・グループワーク 「事例研究を通し、より良い看護実践にむけた今後の課題」
役 割 研 修	中堅ナース研修	4月16日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・中堅ナース研修オリエンテーション 講師：教育委員会 看護係長 三浦 栄子
		6月4日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「莊内病院のチーム医療体制」 講師：看護副部長 原田 あけみ
		6月4日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「退院支援について」 講師：地域医療連携室 看護係長 梶谷 まゆみ
		6月15日（金）	出張 本当に困った事例で学ぶ看護倫理
		7月23日（月）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「医療安全対策について」 講師：医療安全管理室 看護係長 金子 弘美
		8月31日（金）	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：「老年看護に必要な基礎知識」 ・演習：「高齢者疑似体験」 講師：認知症ケア認定看護師 看護主任 富樫 千代美

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
役割研修	リーダーナース研修 I	10月30日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「成人学習に対する基礎知識」 講師：臨床指導委員会 千葉 美宜 講義：「看護経験の概念化について」 講師：教育委員会 看護係長 三浦 栄子
		平成31年 1月30日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 1年の振り返り 実践レポート発表「医療チームの一員としての力を発揮したこと」 グループワーク「今後の自己の役割と目標について」
	リーダーナース研修 II	4月16日(月)	<ul style="list-style-type: none"> リーダーナース I 研修オリエンテーション 講師：教育委員会 看護係長 三浦 栄子 看護研究オリエンテーション 看護研究要項より 講師：看護研究委員長 看護主査 押井 あけみ 看護研究 研究の倫理的配慮について 講師：看護研究委員 看護研究 研究計画書の書き方 講師：看護研究委員 看護研究 文献検索について 講師：看護研究委員
		5月18日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「看護倫理問題の解決方法」 講師：看護部倫理委員長 看護主査 齋藤 恭子
		7月4日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「コーチング」 講師：看護係長 本間 千春 グループワーク：事例検討
		7月5日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「荘内病院の現状と今後の展望」 講師：事務部長 土屋 清光 講義：「看護管理とリーダーシップ」 講師：副院長兼看護部長 佐藤 さゆり
		12月21日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 看護研究発表 グループワーク 『研修を通して学んだこと、今後の自己の役割』
		4月16日(月)	<ul style="list-style-type: none"> リーダーナース II 研修オリエンテーション 講師：教育委員会 看護係長 三浦 栄子
		5月21日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「職場で活かす業務管理のポイント」 講師：看護部副部長兼看護主幹 鈴木 郁 講義：「働く職業人としての役割モデル」 講師：看護主査 山口 ゆかり
		6月1日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「分析(SWOT)方法について」 講師：統括看護主幹 丸山 邦
		6月22日(木)	出張 看護者の倫理綱領 一事例を通して考えるー
		9月3日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「看護倫理とクレーム対応について」 講師：統括看護主幹 城井 慶子
		10月1日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 講義：「医療安全対策について 一事例を分析してみようー」 講師：医療安全管理室 看護係長 金子 弘美 ファシリテーター：看護係長 今野 志津子
		12月17日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 1年の成果発表(パワーポイントでプレゼンテーション) 「各自の成果と課題」 発表『研修を通して学んだこと』
全体研修	看護学会報告	11月29日(木)	院外投稿看護学会発表 研究発表会
専門研修	専門分野研修	5月1日(火)	<ul style="list-style-type: none"> がん化学療法看護研修会 第1回目 「抗がん剤の安全な取り扱い方法と投与管理」 講師：がん化学療法看護認定看護師 看護主任 佐々木 孔美

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
専 門 研 修	専門分野研修	5月2日(水)	・フィジカルアセスメント研修会 第1回目 「息が苦しそう」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		5月7日(月)	・緩和ケア研修会 第1回 「緩和ケアについて」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 阿部 美知子
		5月11日(金)	・高齢者看護研修会 第1回 「高齢者看護を理解する為の基礎」 講師：認知症看護認定看護師 看護主任 富樫 千代美
		5月23日(水)	・摂食嚥下・栄養研修会 第1回 「摂食嚥下の観察と評価」 講師：摂食嚥下障害看護認定看護師 看護主任 石井 佳
		5月29日(火)	・感染管理研修会 第1回 「標準予防策のポイント」 講師：感染管理認定看護師 看護係長 栗田 香
		5月30日(水)	・皮膚・排泄ケア研修会 第1回 「即実践！科学で考えるスキンケア」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		6月7日(木)	・フィジカルアセスメント研修会 第2回目 「具合が悪そうショック!!」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉
		6月8日(金)	・高齢者看護研修会 第2回 「認知症についての基礎」 講師：認知症看護認定看護師 看護主任 富樫 千代美
		6月12日(火)	・緩和ケア研修会 第2回 「がんの痛みも怖くない」 講師：緩和ケア認定看護師 看護係長 阿部 美知子 看護主任 上林 沙希子
		6月14日(木)	・救急看護研修会 第1回 「急変の初期評価・対応」 講師：救急看護認定看護師 看護主任 宮崎 隆寛
		6月18日(月)	・摂食嚥下・栄養研修会 第2回 「食事介助」 講師：摂食嚥下障害看護認定看護師 看護主任 石井 佳
		7月2日(月)	・災害看護研修会 第1回 「災害看護概論」 講師：DMAT隊員 石川 陽一 三浦 良哉 宮崎 隆寛 山口 慎太郎
		7月3日(火)	・感染管理研修会 第2回 「感染経路別予防策」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		7月10日(月)	・がん化学療法看護研修会 第2回目 「血管外漏出のリスクアセスメントと対応方法」 講師：がん化学療法看護認定看護師 看護主任 佐々木 孔美
		7月30日(月)	・緩和ケア研修会 第3回 「せん妄の治療とケア」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 上林 沙希子
		8月2日(水)	・摂食嚥下・栄養研修会 第3回 「誤嚥について」 講師：摂食嚥下障害看護認定看護師 看護主任 石井 佳

分 区	研修コース	期 日	研 修 内 容
専 門 研 修		8月3日(金)	・感染管理研修会 第3回 「医療関連感染予防策」 講師：感染管理認定看護師 看護主査 若松 由紀子
		8月6日(月)	・高齢者看護研修会 第3回 「認知症高齢者への対応」 講師：認知症看護認定看護師 看護主任 富樫 千代美
		8月7日(火)	・皮膚・排泄ケア研修会 第2回 「失禁ケア」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		8月9日(木)	・救急看護研修会 第2回 「高齢者・小児救急」 講師：救急看護認定看護師 看護主任 宮崎 隆寛
	専門研修	8月20日(月)	・災害看護研修会 第2回 「災害トリアージ」 講師：DMAT隊員 山口 慎太郎
		9月11日(火)	・がん看護研修会 第1回目 「がん患者の症状マネジメント」 講師：がん化学療法看護認定看護師 看護主任 佐々木 孔美
		9月13日(木)	・災害看護研修会 第3回 「初動体制シミュレーション」 講師：DMAT隊員 山口 慎太郎
		9月21日(金)	・救急看護研修会 第3回 「急変事例の展開」 講師：救急看護認定看護師 看護主任 宮崎 隆寛
		9月28日(金)	・創傷ケア研修会 第1回目 「手術部位感染対策」 講師：感染管理認定看護師 看護係長 栗田 香
		10月5日(金)	・がん看護研修会 第2回目 「疼痛アセスメント」 講師：緩和ケア認定看護師 看護主任 阿部 美知子
		10月9日(水)	・創傷ケア研修会 第2回 「周術期の栄養」 講師：摂食嚥下障害看護認定看護師 看護主任 石井 佳
		11月5日(月)	・がん看護研修会 第3回目 「再発・転移時の心理的支援」 講師：乳がん看護認定看護師 看護主任 竹内 梨紗
		11月13日(火)	・創傷ケア研修会 第3回 「エビデンスのある創傷ケアの実践」 講師：皮膚・排泄ケア認定看護師 看護係長 梅本 貴子
		12月11日(火)	・創傷ケア研修会 第4回 「ドレーンの管理」「胃瘻の管理」 講師：集中ケア認定看護師 看護主任 三浦 良哉 講師：摂食嚥下障害看護認定看護師 看護主任 石井 佳

□ 3年目ナース研修 看護研究発表

研 究 テ ー マ	氏 名
胸腰椎椎弓切除術後患者のセルフケア獲得に向けた看護師の効果的な関わり —オレムのセルフケア理論を用いて—	5階西入院棟 林 幸
脳梗塞急性期の夜間せん妄患者に対しての関わり —夕方に足浴を実施してみて夜間せん妄や睡眠状況の変化—	6階東入院棟 沼沢 聰美
脊椎梗塞により麻痺が出現した壮年期の患者の障害受容の関わり —フィンクの危機モデルを用いての分析—	6階東入院棟 三浦 瑠衣
入退院を繰り返す糖尿病患者の行動変容を促す看護	6階西入院棟 山口 珠枢
透析導入となる患者の生活変容を支える看護	6階西入院棟 本間 名津美
初回化学療法を受ける肺癌患者の入院中の心理的変化に関する調査 —フィンクの危機理論を用いて—	7階東入院棟 上林 伶未音
在宅酸素療法導入患者が不安なく退院できるための援助 —理解度を可視化し、自己効力感を高める—	7階東入院棟 富樫 京
がん終末期患者をもつ家族に対する家族ケア —自宅退院を目指して—	8階東入院棟 中西 千明
終末期患者の浮腫による苦痛軽減につながる関わり	8階西入院棟 斎藤 成美

□リーダーナース研修Ⅰ 看護研究発表

研究テーマ	氏名
カンガルーケア移動時のストレスサインの比較 —ファミリーセンタードケアに基づいた看護を提供するために—	NICU 五十嵐 佐知
卒後2年目看護師が抱えるストレスと必要な支援を考察する	6階西入院棟 今野 里紗
看護師の環境整備に対する意識向上に向けた取り組み	7階西入院棟 小野寺 里奈
褥瘡予防のための部署スキンケアラウンドの効果	8階東入院棟 菅原 美奈子
術後看護における呼吸アセスメントツール導入の効果	8階東入院棟 大滝 まり子
人工呼吸器装着中の患者への予防的スキンケア —保湿剤使用による新規褥瘡発生予防への効果—	集中治療センター 松川 瑞希
重症患者家族対応における看護師の感情の変化 —CNS-FACEⅡスケールを用いて—	救急センター瀬尾 沙耶子
救急センター看護師の認知機能低下がある高齢者看護に対する現状調査 —高齢者の尊厳を守るために—	救急センター 齋藤 智
手術センターにおけるアレルギーリスク回避の取り組み —ヨードアレルギー患者の対応チェックカードの導入と有効性の評価を行って—	手術センター 加賀山 さやか
プライバシーに配慮した手術入室時の引継ぎ場所変更の試み —手術センターと入院棟看護師の視点から—	手術センター 工藤 麻矢
透析導入時の患者指導について今後の課題を明らかにする —現状調査から見えたこと—	血液浄化療法センター 高橋 さおり
透析マニュアルに沿った確認行動の実態調査	血液浄化療法センター 齋藤 まゆ

□リーダーナース研修Ⅱ 看護研究発表

研究テーマ	氏名
外来業務を安心・安全に行うための取り組み —マニュアル整備と学習会を行って—	4階東入院棟 斎藤 幸
育児と産後メンタルヘルスケアの支援に向けた取り組み —産後2週間健診を導入して—	4階西入院棟 原田 圭
看護師の清潔ケアに関するアセスメント能力向上を目指した取り組み	5階西入院棟 五十嵐 かずみ
看護師の清潔ケアに関するアセスメント能力向上を目指した取り組み	5階西入院棟 加藤 愛
弾性ストッキング装着におけるMDRPU予防の取り組み	6階東入院棟 長谷川 智子
身体拘束解除に向けた取り組み —日本看護倫理学会身体拘束予防ガイドラインを使用した効果—	6階東入院棟 金野 かおり
がんリハビリテーションの早期導入を試みて	8階東入院棟 佐藤 靖子
リーダー業務の標準化に向けた取り組み	集中治療センター 阿部 博子
高エネルギー外傷初期対応の周知に向けた取り組み	救急センター 渡部 茜

□看護研究院外発表・学会出張報告

	研究テーマ	氏名
□演	日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 演題名：排尿ケアチーム介入患者の現状分析	5階西入院棟 五十嵐 かずみ
	医療マネジメント学術集会 演題名：手術室における手指衛生実施率向上への取り組み	手術センター 白幡 沙織
	全国自治体病院学会 演題名：早期介入のための入院時嚥下スクリーニングの効果	摂食・嚥下障害 看護認定看護師 石井 佳
	山形県看護研究学会 演題名：抗がん剤曝露対策における看護師による患者・家族指導の実態調査	8階東入院棟 伊藤 千加
	山形県看護研究学会 演題名：NICU看護師によるハイリスク妊婦への産前訪問の取り組み	NICU 榎本 朋
ボスター掲示	第23回 日本緩和医療学会学術大会 演題名：当院職院のアンケート調査から見えてきた「終末期患者の栄養補給」に関する意識	外科外来 上林 沙希子
	日本認知症ケア学会 演題名：急性期病院からはじめる地域での認知症ケアのアウトリーチ －認知症ケアチームの退院後訪問事例を通して－	6階東入院棟 富樫 千代美
	日本認知症ケア学会 演題名：一時ペーシングが挿入された高齢患者のせん妄症状の軽減への取り組み －内服と環境の調整を行って－	池田 悅子 五十嵐 麻美 今野 優喜 富樫 千代美 百瀬 幸 丸谷 宏 認知症ケアチーム
	日本看護技術学会 演題名：認知症ケアチーム活動3年目におけるリンクナース育成の現状と課題	6階東入院棟 富樫 千代美
	J感染制御ネットワークフォーラム 演題名：手術部位感染についての理解度調査	手術センター 栗本 こすも
出張報告	日本感染管理ネットワーク学術集会 演題名：手術室外回り看護師の手指衛生実施率向上を目指して	手術センター 栗田 香
	日本母性衛生学会 演題名：他職種で関わった外国人妊婦の一例	4階西入院棟 渡部 泰恵子
	東北救急医学会 演題名：リンクナース活動による急変対応事例検証の効果	救急センター 宮崎 隆寛
	第19回日本クリニカルパス学術集会 演題名：OFC電子パス移行による経営の質改善効果について	4階東入院棟 本間 めぐみ
	第57回全国自治体病院学会 演題名：認定看護師による地域の看護師に向けた教育研修公開の評価	集中治療センター 三浦 良哉
出張報告	第57回全国自治体病院学会 演題名：低位鎖肛疾患の小児と家族に対する病院から地域へ繋ぐ関わり	4階東入院棟 庄司 敦子
	日本看護学会 看護管理	8階西入院棟 三浦 栄子
	日本看護学会 慢性看護	6階西入院棟 長谷川 愛子
	北日本看護学会学術集会	5階東入院棟 佐藤 早苗
出張報告	特定行為研修	集中ケア認定 看護師 三浦 良哉

V 各診療科別および各部門別の臨床統計

1. 循 環 器 科

2018年1月1日から12月31日までの検査、治療成績を報告する。

表1 カテーテル検査・治療

	2018年	2017年	2016年	2015年
診断カテーテル検査	82	106	108	104
冠動脈形成術 PCI	52(30)	58(34)	71(43)	65(41)
血管内超音波検査	52	58	73	66
末梢血管形成術 PTA	0	0	0	1
ペースメーカー植え込み、交換	38	54	57	55
下大静脈フィルター	2	1	2	0
IABP	1	6	8	2
合 計	283	283	319	293

表2 非侵襲的検査

	2018年	2017年	2016年	2015年
心エコー検査	2472	2783	2750	2611
ホルター心電図	201	281	267	236
トレッドミル運動負荷試験	79	120	116	125
PWV	141	78	101	68
心筋シンチグラフィー	40	36	36	41
冠動脈CT	142	165	164	152
心臓MRI	7	4	4	7

表3 入 院 治 療

	2018年	2017年	2016年	2015年
退院患者数	843	976	1,029	983

2. 呼 吸 器 科

(2018年1月1日～12月31日)

	2018年外来患者数		入院患者数	気管支鏡検査数
	新 患	再 来		
1月	13	481	53	11
2月	14	411	34	7
3月	11	509	45	10
4月	8	402	39	9
5月	18	456	38	6
6月	18	455	35	8
7月	28	431	29	15
8月	8	524	38	7
9月	9	418	30	8
10月	22	471	25	4
11月	12	429	32	5
12月	10	384	28	0
計	171	5,371	426	90

3. 一般外科手術症例

(2018年1月1日～12月31日)

1 手術総数	予定手術	474 (79.5%)
	緊急手術	122 (20.5%)
	計	596

2 麻酔法別手術	全身麻酔	503 (84.4%)
	腰椎麻酔	41 (6.9%)
	局所麻酔	52 (8.7%)
	計	596

3 手術596症例の内訳（一部重複あり） 主な手術術式

1) 頸部疾患

甲状腺癌	10	甲状腺悪性腫瘍手術（単純切除）	8
甲状腺良性腫瘍	17	甲状腺悪性腫瘍手術（広汎切除）	5
計	27	甲状腺部分切除（片葉）	14
		計	27

2) 乳腺疾患

乳癌	35	乳腺悪性腫瘍手術（部分切除、郭清を伴わないもの）	19
乳腺腫・良性腫瘍	3	乳腺悪性腫瘍手術（部分切除、郭清を伴うもの）	1
腋窩リンパ節再発	3	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除、郭清を伴わないもの）	12
計	41	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除、郭清を伴うもの）	3
		乳腺腫瘍摘出術（5cm 未満）	3
		乳腺腫瘍摘出術（5cm 以上）	0
		乳房切除術（良性）	0
		腋窩リンパ節郭清	3
		計	41

3) 食道疾患

食道癌	4	食道悪性腫瘍手術（頸、胸、腹部）	1
計	4	食道悪性腫瘍手術（胸、腹部）	0
		食道悪性腫瘍手術（胸、腹部）（胸腔鏡下）	3
		計	4

4) 胃・十二指腸疾患

噴門癌	4	胃悪性腫瘍手術（広汎切除）	16
胃底部癌	1	胃悪性腫瘍手術（単純切除）	1
胃体部癌	14	胃悪性腫瘍手術（広汎全摘）	8
幽門前庭部癌	13	胃悪性腫瘍手術（単純全摘）	1
幽門癌	2	胃悪性腫瘍手術（腹腔鏡下）	3
その他の胃癌	3	噴門胃切除（悪性）	1
計	37	残胃全摘	1
GIST	2	胃空腸吻合術	3
(胃癌・胃悪性腫瘍	39)	大網充填術	4
胃潰瘍・穿孔	2	胃局所切除術（開腹）	2
胃潰瘍・出血	1	胃切除術（悪性以外）	1
十二指腸癌	3	胃瘻造設術（開腹）	2
十二指腸潰瘍・穿孔	5	試験開腹	0
十二指腸潰瘍・出血	0	計	43

5) 小腸疾患(イレウスは除く)

小腸癌	1	バイパス手術	1
腸間膜腫瘍	1	小腸切除術（悪性腫瘍）（広汎切除）	0
小腸穿孔	0	小腸瘻造設術	4
癌性腹膜炎	1	腸重積整復術	0
計	3	小腸切除術（開腹）	0
		小腸瘻閉鎖術（腸管切除を伴う）	0
		計	5

6) 結腸・直腸・肛門疾患

①結腸

盲腸癌	8	結腸切除術（悪性腫瘍）（単純切除）	6
虫垂癌	1	結腸切除術（悪性腫瘍）（広汎切除）	40
上行結腸癌	31	結腸切除術（小範囲切除）（開腹）	7
右結腸曲癌（肝弯曲）	1	結腸切除術（悪性腫瘍）（腹腔鏡下）	7
横行結腸癌	11	直腸悪性腫瘍手術（広汎切除）（高位）	2
左結腸曲癌（脾弯曲）	1	腹腔鏡下高位前方切除術	1
下行結腸癌	5	直腸悪性腫瘍手術（広汎切除）（低位）	4
S状結腸癌	13	腹腔鏡下低位前方切除術	1
計	71	直腸悪性腫瘍手術（広汎切断）	2

②直腸

直腸S状部癌	5	直腸切断術	3
直腸癌	19	直腸部分切除術	0
計	24	人工肛門造設術	9
		痔核根治術	1
		痔瘻根治術（単純）	0
		痔瘻根治術（複雑）	1

急性腹膜炎	7	肛門良性腫瘍切除術	0
計	7	人工肛門閉鎖術	5
(大腸癌・悪性腫瘍	95	直腸脱手術（経肛門）	2
		大腸全摘回腸肛門吻合術	1
		結腸切除術（全切除）	1
		結腸単純縫合術	1
③肛門		肛門ポリープ切除	2
痔瘻	1	仙尾部奇形腫手術	1
肛門癌	0	壊死性筋膜炎手術（デブリードマンなど）	0
良性腫瘍	1	計	100
肛門周囲膿瘍	0		
直腸脱	2		
壊死性筋膜炎	0		
内痔核	1		
計	5		

7) 肝臓疾患

肝細胞癌	6	肝亜区域切除	0
転移性肝腫瘍	5	肝外側区域切除	2
肝外胆管癌	6	肝切除術（部分切除）	7
肝内胆管癌	4	肝切除術（1区域切除）	2
肝外傷	0	肝切除術（2区域切除）	9
計	21	肝切除術（3区域切除）	0
		肝悪性腫瘍ラジオ波凝固術（開腹）	0
		肝悪性腫瘍ラジオ波凝固術（経皮的）	1
		肝周囲パッキング除去術	0
		肝損傷止血術	0

8) 胆道・脾・脾疾患

①胆道		胆管悪性腫瘍手術	0
胆管癌（下部）	6	胆管悪性腫瘍手術（リンパ節郭清を伴う）	0
総胆管結石	5	肝門部胆管癌切除術（血行再建なし）	0
胆囊ポリープ	4	胆管切開結石摘出術（開腹）	5
胆囊癌	5	肝外胆道切除術（胆囊胆道切除・胆道再建）	1
胆石症	77	総胆管消化管吻合術	1
計	97	総胆管拡張症手術	1
		脾頭十二指腸切除術（リンパ節郭清を伴う）	13
②脾臓		脾頭十二指腸切除術（動脈・門脈同時再建を伴う）	1
脾頭部癌	14	脾頭十二指腸切除術（動脈もしくは門脈再建を伴う）	1
脾体部癌	6	脾頭十二指腸切除術（周辺臓器の合併切除を伴う）	2
脾尾部癌	3	脾全摘（血行再建なし）	0
十二指腸乳頭部癌	3	脾体尾部切除（脾摘を伴う）	1
脾粘液性囊胞腺癌	0	脾体尾部切除術（周辺臓器の合併切除を伴う）	1
脾管内乳頭粘液性腺癌	0	脾体尾部切除術（リンパ節郭清を伴う）	3
脾管内乳頭粘液性腫瘍	0	脾管空腸吻合	0
脾損傷	0	腹腔鏡下胆囊摘出術	65
計	26	胆囊摘出術	12
		胆囊悪性腫瘍手術（肝症切除を伴う）	0

③脾臓		胆囊悪性腫瘍手術（胆囊に限局）	0
	0	計	132

9) イレウス

癒着性イレウス	17	内ヘルニア手術	5
内ヘルニア	4	腸管癒着症手術	16
絞扼性イレウス	10	小腸切除を伴う腸管癒着症手術	11
その他のイレウス	2	小腸切除術（腹腔鏡下）	1
計	33	計	33

10) 腹膜・後腹膜

腹腔内出血	3	脂肪腫摘出術	0
後腹膜悪性腫瘍	2	後腹膜悪性腫瘍手術（広範摘出）	3
その他	14	試験開腹術	2
計	19	限局性腹腔膿瘍手術	5
		急性汎発性腹膜炎手術	6
		大網切除術	1
		腸管膜腫瘍摘出術（腸切除を伴う）	1
		腸管膜腫瘍摘出術（腸切除を伴わない）	1
		腸間膜損傷手術（腸管切除を伴う）（複雑）	0
		計	19

11) 虫垂疾患

急性虫垂炎	23	腹腔鏡下虫垂切除術（簡単）	9
慢性虫垂炎	9	腹腔鏡下虫垂切除術（複雑）	6
計	32	虫垂切除術（開腹）	17
		計	32

12) ヘルニア

鼠径ヘルニア	73	鼠径ヘルニア手術	73
大腿ヘルニア	3	大腿ヘルニア手術	3
閉鎖孔ヘルニア	1	閉鎖孔ヘルニア手術	1
腹壁瘢痕ヘルニア	4	腹壁瘢痕ヘルニア手術	4
臍ヘルニア	1	臍ヘルニア手術	1
計	82	計	82

13) CVポート/カテーテル関連

CAPDチューブ抜去	1
CVポート造設術	33
CVポート抜去	1
計	35

14) 泌尿生殖器

尿膜管遺残	2	腹腔鏡下尿膜管摘出術	2
計	2	計	2

15) 呼吸器	12	
		肺切除術（肺葉切除）（胸腔鏡下） 2
		胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除術） 1
		肺囊胞手術（楔状部分切除）（胸腔鏡下） 5
		横隔膜縫縮術（胸腔鏡下） 1
		持続的吸引胸腔ドレナージ手術 3
		計 12

16) 体表		
リッパ節腫脹/再発	7	皮下良性腫瘍摘出術 3
その他	8	移植副甲状腺摘出術 1
計	15	皮膚悪性腫瘍摘出術（単純） 1
		腹壁腫瘍摘出術 2
		リッパ節生検/摘出術 7
		気管切開 1
		計 15

17) その他	その他	14
---------	-----	----

4. 小児外科手術症例

(2018年1月1日～12月31日)

I) 手術総数	82例		
予定手術	55 (75.3%)		
緊急手術	18 (24.7%)		
腹腔鏡手術	29 (39.7%)		
II) 小児外科手術例の内訳			
病名	術式		
A) 新生児症例	5		7
1. 腹壁破裂	1	サイロ形成術	1
		腹壁閉鎖術	1
2. 胎便栓症候群	1	小腸瘻（小腸ストーマ造設術）	2
3. 壊死性腸炎	1		
4. 中間位鎖肛	1	人工肛門造設術（横行結腸）	1
5. 卵巣囊腫（茎捻転）	1	腹腔鏡下卵巣摘出術	1
B) 代表的疾患			
病名	術式		
1. ヘルニア	23		40
1) 鼠径ヘルニア	23		
男	15	Potts' 法	16
女	8	LPEC法	7
2. 虫垂炎	17	腹腔鏡下虫垂切除術（待期的）	17(8)
C) 部位別疾患			
病名	術式		
1. 体表疾患	2		2
リンパ管腫	2	ピシバニール注入	2
2. 頸部	3		3
1) 呼吸不全	1	気管切開	1
2) 正中頸囊胞	2	Sistrunk手術	2

3. 胃・十二指腸疾患	2	2
1) 胃食道逆流症	1	腹腔鏡下噴門形成術+胃瘻造設
2) 上部消化管出血	1	上部消化管内視鏡検査
4. 小腸疾患	4	7
1) 小腸瘻脱出	1	人工肛門再増設
		人工肛門閉鎖術
2) 腸重積症	3	非観血的整復術
		Hutchinson
5. 結腸疾患	2	2
1) 横行結腸ポリープ	1	大腸内視鏡検査
2) 炎症性腸疾患疑い	1	
6. 直腸・肛門疾患	3	3
1) 低位鎖肛	2	腹腔鏡下鎖肛根治術
		Potts'手術
2) 直腸ポリープ	1	経肛門的ポリープ切除術
7. 肝・胆道疾患	1	2
1) 胆道閉鎖症	1	葛西手術
2) 先天性胆道拡張症	1	胆道再建
8. 泌尿・生殖器疾患	5	5
1) 精巢		
停留精巢	3	停留精巢固定術
		腹腔鏡補助下停留精巢固定術
2) 尿膜管遺残	2	腹腔鏡下尿膜管摘出術
9. その他	2	2
経口摂取困難	2	中心静脈カテーテル挿入

5. 整 形 外 科

(2018年1月1日～12月31日)

臨床統計

2018年 整形外科手術件数 1,068件

大腿骨近位部骨折手術 238件

橈骨遠位端骨折 59件

脊椎手術 93件

人工関節手術 57件

関節鏡手術 46件

など

6. 産婦人科

産婦人科手術 総数 255

(平成30年1月～12月)

子宮手術	89	産科手術	119
子宮摘出	58	帝王切開	90
子宮悪性腫瘍	9	緊急帝王切開	44
子宮筋腫	33 (腹腔鏡下 23)	選択的帝王切開	46
子宮内膜症	7 (腹腔鏡下 4)	頸管縫縮術	5
子宮頸部異形成上皮	1 (腹腔鏡下 1)	流産手術	16
子宮脱	8	人工中絶	4
その他	0 (腹腔鏡下 0)	子宮外妊娠手術	3 (腹腔鏡下 3)
子宮筋腫核出	6 (腹腔鏡下 0)	その他	4
子宮頸部円錐切除	21	その他	5
その他	4		

付属器(卵巣・卵管)手術	42	分娩件数	306
悪性腫瘍	5		
良性腫瘍	25 (腹腔鏡下 20)		
子宮内膜症	10 (腹腔鏡下 6)		
卵巣出血	0		
その他	2		

産婦人科月別外来患者数

(平成30年1月～12月) 単位：人

月	新患者数	再来患者数	計
1月	34	630	664
2月	45	581	626
3月	38	682	720
4月	47	671	718
5月	44	591	635
6月	43	656	699
7月	38	671	709
8月	45	572	617
9月	32	593	625
10月	50	757	807
11月	37	645	682
12月	30	572	602
計	483	7,621	8,104

産婦人科月別入院患者数

(平成30年1月～12月) 単位：人

月	入院患者数	退院患者数	延べ入院患者数
1月	57	57	929
2月	49	54	822
3月	50	50	840
4月	70	56	784
5月	58	62	895
6月	64	68	825
7月	58	65	899
8月	55	53	888
9月	49	51	792
10月	63	65	862
11月	56	55	872
12月	60	57	859
計	689	693	10,267

7. 小児科 (NICU)

平成30年の小児科NICU入院数は157例で、前年並みの入院数を維持していた。出生体重別入院数は、～499gが0例、500～999gが7例、1000～1499gが7例、1500～1999gが10例、2000～2499gが28例、2500g以上が105例で、超低出生体重児の入院が例年に比し多かったが、1500g未満の極低出生体重児という括りでは14例で、その数はほぼ例年通りだった。なお幸いなことに、昨年は死亡退院はいなかった。

出生場所については院内出生が140/157(89.2%)、院外出生が17/157(10.8%)で、例年通り圧倒的に院内出生が多かった。院内出生のうち18/140(12.9%)が母体搬送症例で、昨年に比し半減していた。北庄内からの母体搬送は6例で昨年に比し1/3に減少したが、新生児搬送は3例で平年並みだった。ハイリスク妊娠が多いため92例に帝王切開術が実

施されていて、入院児に対する帝王切開術の割合は65.7% (92/140)と例年通り高率だった。また人工換気症例は16/157 (10.2%)で前年並みであったが、最近のNCPAPの活用により人工換気症例は以前より減少している。新生児外科症例は胎便関連腸閉塞+出血後水頭症、左卵巣腫瘍茎捻転、中間位鎖肛、腹壁破裂、未熟児動脈管結紮の5例で、全て当院で手術を行った。新生児搬送は、新潟大学病院に搬送した肺動脈閉鎖+心室中隔欠損症と東京女子医科大学付属八千代医療センターに搬送した18トリソミー+大動脈縮窄複合の2例で、いずれもヘリコプターで搬送した。

平成27年11月より新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温療法が当院でも実施可能になり、昨年は胎児母体間輸血症候群+先天性サイトメガロウイルス感染症の1例に施行した。

出生体重	入院数	死亡退院数
～ 499g	0	0
500 ～ 999g	7	0
1000 ～ 1499g	7	0
1500 ～ 1999g	10	0
2000 ～ 2499g	28	0
2500g ～	105	0
計	157	0

8. 小 儿 科

小児科（2018年度統計）

2018年度に4階東病棟（4東病棟）に入院した患者数は計1150名（男児600名、女児550名）であった。表1に各疾患群別の入院患者数の年次推移を示す。例年呼吸器感染症による入院が最多であるがその傾向は2018年度も同様であり、病原体別にはRSウイルスが最も多く、他にヒトメタニユーモウイルス、マイコプラズマ、各種細菌性肺炎などが多くを占めていた。また、消化器疾患は感染性胃腸炎の流行によって入院患者数が変動するが、昨年度は大きな流行はなく、2017年度と同程度の患者数となった。他、2015年度より低身長の児に対する成長ホルモン分泌負荷試験やMRIの経静脈的鎮静について、安全性の観点から従来の外来で

の検査から入院検査へと変更を行っており、「検査入院」として集計を行っている。更にアトピー性皮膚炎の乳幼児に対するスキンケア入院、食物アレルギー児に対する経口食物負荷試験などを新たに開始しており、同様に検査入院として分類している。これら新たな試みとして開始した分野の入院患者数は年々増加がみられ、2018年度は140名の入院があった。乳児におけるスキンケアはその後の食物アレルギーなどの疾患の発症と関連していることが報告されているが、その事実はまだ一般には十分に知られていない。地域で専門的に介入できる機関が少ない事からも潜在的な需要はまだ満たされていないと考えられ、今後も質の高い医療を提供してゆきたいと考えている。

表1 小児科入院患者の疾患別内訳

疾 患 群	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
呼吸器感染症	388	496	397	319	377	378	418	403
消化器疾患	94	215	110	101	168	142	136	124
気管支喘息	175	196	126	66	217	169	122	129
神経疾患	113	122	147	139	163	182	165	149
その他の感染症	46	50	46	51	58	43	38	41
腎・泌尿器疾患	22	27	27	40	21	39	11	23
川崎病	22	12	23	14	11	18	14	19
内分泌・代謝疾患	11	12	13	8	6	4	5	15
アレルギー・免疫疾患	10	10	18	19	48	30	17	22
血液・腫瘍性疾患	6	9	6	6	4	7	7	9
事故	11	8	7	8	19	11	9	8
循環器疾患	4	4	2	5	10	4	8	6
心身症	7	0	2	3	1	4	4	3
その他	10	13	13	39	42	37	23	49
検査入院					46	77	115	140
レスパイト入院	—	—	—	—	—	10	13	10
合 計(人)	919	1,174	937	818	1,191	1,155	1,105	1,150

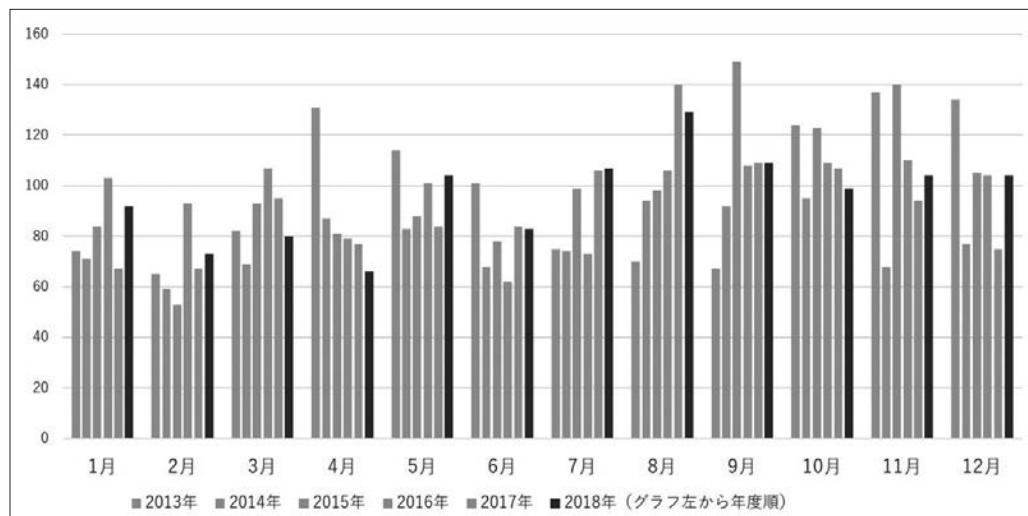


図1 月別の入院患者数の年次推移

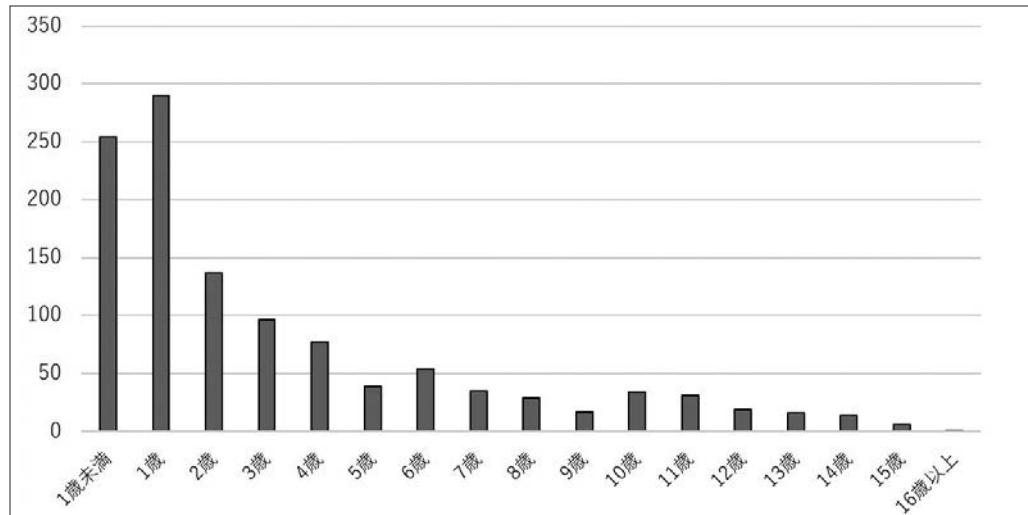


図2 年齢別の入院患者数

図1に月別の入院患者数の推移を示す。例年、小児科は感染症の流行が小さくなる夏期に患者数の減少がみられるが、当科では近年は夏休みを利用した学童の検査入院が増加する傾向にあり、2018年度においても2017年度と同様に8月の入院数が最多となった（図の縦軸の単位は人）。以前は春、秋に患者数が増加していた気管支喘息が治療管理法の進化により季節性の発作で入院する患者は減っており、また上述のように感染症の流行様式も以前のものとは変化してきている。季節に

よる入院患者数の変動が大きい事が小児科の入院病棟の特徴であり、当科でも月別の患者数変動は大きいがその患者背景は以前とは全く異なるものとなっている。

図2に年齢別の入院患者数を示す。2歳未満の入院が多く、これは例年と同様の傾向であった。また、2017年度からは小児慢性特定疾患の認定を受けた15歳～20歳未満の児も4東病棟に入院できるようになっており、2018年度は15歳以上の患者が8名入院した。

図3に入院時間別の入院患者数を示す。2015年以降、検査入院などの予定入院患者が増加したため、以前に比べて午前中10時・11時台の入院患者

数が増加傾向にあるが、2018年度も同様であった。21時以降の夜間入院は比較的少ない傾向のまま推移している。

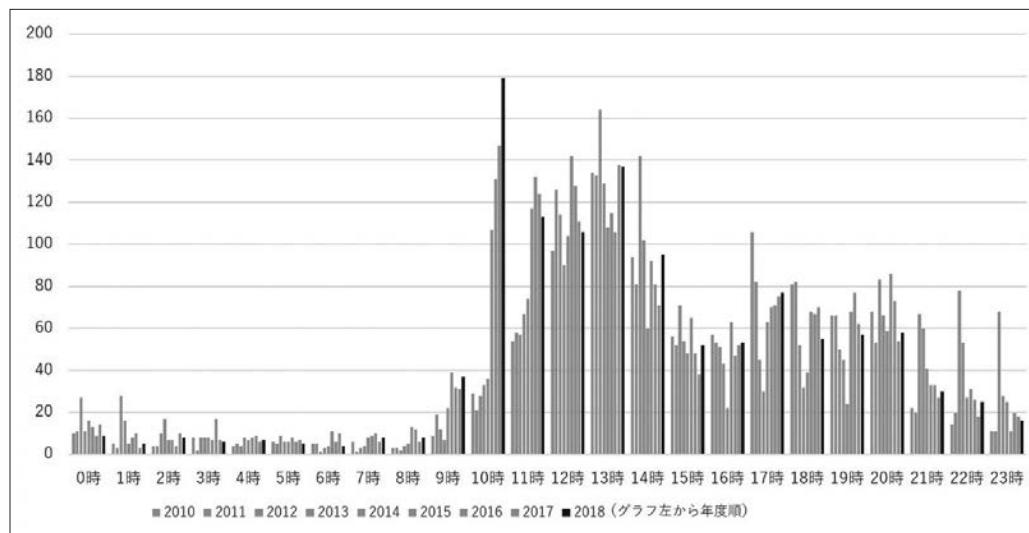


図3 入院時間別患者数の年次推移

2015年7月に4東病棟は小児専門病棟としての運営を開始した。4年を経過し、以前よりも専門性の高い医療を提供できるようになっているが、診療が緻密化、複雑化した結果として患児1人1人のケアに要する時間や人員が以前とは比べものにならない程増加するなど、特に看護の面において課題が増えてきている。小児はもともと治療に関わる人員を多く要する科であるが、人手不足のために当科がもつ機能を完全には発揮できていない面がみられる事は今後の地域全体に関わる問題である。以前から医師数の維持のために若手医師にとってただ忙しいだけでなく十分に自己研鑽が

できる良い環境であるように常に努めてきたが、看護、保育に関わるスタッフについても同様に、高度な医療提供に耐えうるように十分な要員数の確保と技術向上のための時間確保など、小児医療に関わるスタッフの環境改善が急務となっている。今後、当地も未曾有の少子高齢化に直面してゆく未来が待ち受けており、地域の子ども一人一人が心身共に健康を維持してゆく事の意義は今後さらに重要度を増すと考えられる。当科が様々な面で子どもの健康維持に寄与できるよう日々科としての成長を意識して運営に当たりたいと考えている。

9. 耳 鼻 咽 喉 科

2018年耳鼻咽喉科入院内訳

(耳)	
浸出性中耳炎	1
突発性難聴	10
眩暈症	26
顔面神経麻痺	3
(鼻)	
鼻出血	4
鼻中隔弯曲症	1
顔面外傷	2
(咽喉頭)	
扁桃周囲膿瘍	1
習慣性扁桃炎 (op)	3
咽喉頭多発性アフタ	1
急性喉頭蓋炎	1
IgA腎症 (扁摘)	1
喉頭癌	2
気道狭窄	1
計	57

2018年手術内訳

鼓室内チューブ留置術	2
鼻中隔矯正術	1
頬粘膜腫瘍切除術	1
口唇囊腫切除術	2
喉頭腫瘍切除術	1
IgA腎症 扁桃摘出術	2
口蓋扁桃摘出術 (SASを含む)	6
気管切開術	4
計	19

10. 皮膚科

2018年 皮膚科外来患者数

単位：人

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
新患	27	27	20	24	32	28	48	67	45	32	29	25	404
再来	165	131	179	167	160	141	166	165	142	177	142	162	1,897
合計	192	158	199	191	192	169	214	232	187	209	171	187	2,301

11. 泌 尿 器 科

平成30年 泌尿器科手術件数

手 術 名	件数
根治的腎摘除術	2
腎尿管全摘術	5
膀胱全摘術	2
前立腺全摘術	1
経尿道的尿管結石碎石術	2
体外衝撃波結石破碎術	23
経尿道的膀胱癌手術	41
経尿道的膀胱結石碎石術	1
前立腺生検	68
陰のう水腫根治術	2
精巣悪性腫瘍手術	3
その他	8
計	158

12. 放射線科・放射線画像センター

〔臨床統計〕

・原疾患別放射線治療新患者数

1. 脳・脊髄腫瘍	2	8. 婦人科腫瘍	5
2. 頭頸部腫瘍	4	9. 泌尿器系腫瘍	31
3. 食道癌	9	10. 造血リンパ系腫瘍	5
4. 肺癌・気管・縦隔腫瘍	24	11. 皮膚・骨・軟部腫瘍	1
5. 乳癌	29	12. その他(悪性腫瘍)	1
6. 肝・胆・脾癌	6	13. 良性疾患皮膚ケロイド	0
7. 胃・小・結・直腸癌	13	14. (15歳以下の小児)	0

(2018年1月～12月)

・過去3ヶ年の撮影患者数の動向

	2016年1～12月	2017年1～12月	2018年1～12月
勤務時間内	62,785	63,476	62,396
勤務時間外	16,975	18,120	17,749
合 計	79,765	81,596	80,145
前 年 比	102.39%	102.30%	98.2%
対前々年比		104.74%	100.5%

・Interventional Radiology (IVR、画像下治療)

放射線科	血管撮影	TACE	12
		その他血管系IVR	7
		PTA	4
脳神経外科	血管撮影	CTガイド下膿瘍ドレナージ	3
		CTガイド下肺生検	6
		コイル塞栓術	9
		コイル塞栓術+ステント留置術	3
		CAS	3
		血栓回収術	6
		その他IVR (NBCLA)	1
内 科	血管撮影	検査アンギオ	60
		プラッドアクセス留置術	10

〔読影統計〕

	CT		MRI		マンモ		人間ドック(胸部)		人間ドック(CT)	
検査数	18,460		6,254		719		1,829		389	
読影数	12,794	69.3%	2,961	47.3%	719	100%	1,829	100%	389	100%
(院内)	7,108	38.5%	1,375	22.0%	0	0	0	0	389	100%
(院外)	5,686	30.8%	1,586	25.4%	719	100%	1,829	100%	0	0

AiCT	
院内	警察
108	33

※ %は検査数に対する読影数の割合

〔業務統計〕

・撮影種別患者数

撮影項目	2017年1月～12月			2018年1月～12月		
	勤務時間内	勤務時間外	合計	勤務時間内	勤務時間外	合計
一般撮影	29,986	7,703	37,689	29,190	7,724	36,914
ポータブル撮影	4,552	4,055	8,607	4,860	3,666	8,526
乳房撮影	1,545	0	1,545	1,483	2	1,485
パンтом撮影	800	5	805	856	2	858
骨塩定量	1,125	0	1,125	1,037	1	1,038
結石破碎	18	0	18	22	0	22
X線TV	1,883	139	2,022	1,514	132	1,646
一般アンギオ	103	19	122	106	16	122
循環器アンギオ	239	56	295	200	35	235
CT	14,578	5,062	19,640	13,921	5,126	19,047
MR	5,735	1,081	6,816	5,310	1,045	6,355
R	391	0	391	321	0	321
放射線治療	2,521	0	2,521	3,576	0	3,576
合計	63,476	18,120	81,596	62,396	17,749	80,145

13. 麻酔科

2018年麻酔科管理症例

麻酔科管理症例数	1200 (うち手術室内 1191、手術室外 9)
----------	---------------------------

【ASA PS】

予定 1	2	3	4	5	6 (臓器摘出を受ける 脳死患者が対象)	合 計
193	636	109	1	0	0	939
緊急1E	2E	3E	4E	5E	6 E (臓器摘出を受ける 脳死患者が対象)	合 計
24	152	83	2	0	0	261
					合 計	1200

【手術部位】

a.脳神経・脳血管	41	f.下腹部内臓	282	n.股関節・四肢(含:末梢神経)	194
b.胸腔・縦隔	37	g.分娩	4	p.検査	4
c.心臓・血管	1	h.頭頸部・咽喉部	176	q.MAC	0
d.胸腔+腹部	4	k.胸壁・腹壁・会陰	106	r.ECT	0
e.上腹部内臓	254	m.脊椎	93	x.その他	4
				合 計	1200

【麻酔法】

	a : 全身麻酔 (吸入)	b : 全身麻酔 (TIVA)	c : 鎮静	z : なし
1.硬膜外麻酔	121	171	1	0
1.硬膜外麻酔+2.脊髄くも膜下麻酔	0	0	0	2
1.硬膜外麻酔+2.脊髄くも膜下麻酔+3.伝達麻酔	0	0	0	0
1.硬膜外麻酔+2.脊髄くも膜下麻酔+3.伝達麻酔 +4.その他局麻	0	0	0	0
1.硬膜外麻酔+2.脊髄くも膜下麻酔+4.その他局麻	0	0	0	0
1.硬膜外麻酔+3.伝達麻酔	0	0	0	0
1.硬膜外麻酔+3.伝達麻酔+4.その他麻酔	0	0	0	0
1.硬膜外麻酔+4.その他麻酔	0	0	0	0
2.脊髄くも膜下麻酔	1	1	1	6
2.脊髄くも膜下麻酔+3.伝達麻酔	0	0	0	0
2.脊髄くも膜下麻酔+3.伝達麻酔 + 4.その他局麻	0	0	0	0
2.脊髄くも膜下麻酔+4.その他局麻	0	0	0	0
3.伝達麻酔	72	59	0	0
3.伝達麻酔+4.その他局麻	2	0	0	0
4.その他局麻	226	129	0	0
5.麻酔なし	281	127	0	0
合 計	703	487	2	8

旧分類【麻酔法】

A.全身麻酔(吸入)	507	F.硬膜外麻酔	1
B.全身麻酔(TIVA)	256	G.脊髄くも膜下麻酔	7
C.全身麻酔(吸入)+硬・脊・伝麻	196	H.伝達麻酔	0
D.全身麻酔(TIVA)+硬・脊・伝麻	231	X.その他	0
E.脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	2	合 計	1200

【年齢構成】

	男 性	女 性	合 計
AA.～4週未満	4	3	7
AB.～1歳未満	4	13	17
AC.～6歳未満	25	11	36
AD.～10歳未満	16	3	19
AE.～15歳未満	22	12	34
AF.～20歳未満	30	26	56
AG.～30歳未満	28	25	53
AH.～40歳未満	21	35	56
AI.～50歳未満	34	65	99
AJ.～60歳未満	64	62	126
AK.～65歳未満	43	40	83
AL.～70歳未満	81	60	141
AM.～80歳未満	129	136	265
AN.～85歳未満	46	77	123
AO.～90歳未満	28	38	66
AP.～100歳未満	7	11	18
AQ.100歳以上～	0	1	1
合 計	582	618	1200

旧分類【年齢構成】

	男 性	女 性	合 計
A.～1ヶ月	4	4	8
B.～12ヶ月	4	12	16
C.～5歳	25	11	36
D.～18歳	63	38	101
E.～65歳	210	244	454
F.～85歳	250	271	521
G.86歳～	26	38	64
合 計	582	618	1200

【体位】

1. 仰臥位	962	4. 切石位	53
2. 腹臥位	104	5. 坐位	11
3. 側臥位	70	6. その他	0
合 計		1200	

【性別】

男 性	女 性	合 計
582	618	1200

【偶発症例】

A.危機的偶発症	1	C.その他の神経系偶発症	0
B.神経系偶発症（脳・脊髄）	0	D.その他	0
合 計		1	

14. 病理科

臨床統計

院内病理検査は、呼吸器外科が無くなり肺の手術や気管支鏡検査が減ったため組織診、細胞診ともに減少した。科別では、歯科口腔外科、脳神経外科、形成外科は前年に比べ増えた。

また、免疫染色依頼と医師会組織診委託検査は1.1倍ほど増えた。

病理解剖は前年と同じ件数であった。

表1 2018年 病理検査件数

検査種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年計	増減数	増減率
組織診一臓器	153	128	155	124	160	161	136	151	148	186	181	152	1835	1962	-127	-6.47
組織診二臓器	32	23	34	17	28	25	30	30	23	36	30	20	328	314	14	4.45
組織診三臓器	8	17	9	11	8	10	20	15	9	13	23	19	162	130	32	24.6
術中迅速組織診	11	12	8	9	5	3	10	10	8	9	8	6	99	131	-32	-24.4
細胞診検査	238	221	278	250	246	297	269	233	257	286	285	233	3093	3362	-269	-8
術中迅速細胞診	2	1	2	0	2	1	1	1	0	1	3	2	16	27	-11	-40.7
検診細胞検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ドック細胞検査	46	44	49	57	51	64	66	88	61	79	72	57	734	747	-13	-1.74
外部委託検査	37	17	19	25	19	19	20	23	4	21	8	8	220	340	-120	-35
病理検査小計	527	463	554	493	519	580	552	551	510	631	610	497	6487	6842	-355	-9.5
病理解剖	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3	3	0	0
免疫染色	35	38	52	51	48	41	43	50	41	48	47	33	527	495	32	6.46
医師会組織診	238	243	264	234	244	272	304	276	300	320	261	252	3208	2890	318	-16
医師会細胞診	41	43	18	22	24	47	19	21	29	28	25	33	350	870	-520	1.6
病理検査総計	841	787	888	800	835	940	918	898	881	1028	944	815	10575	11100	-525	-10.4

表2 2018年 診療科別統計

() 内は2017年件数

診療科	受付件数組織診	作成組織ブロック数	作成標本枚数組織診	受付件数細胞診	作成標本枚数細胞診	剖検数
内科	17 (7)	29 (9)	266 (108)	15 (24)	61 (79)	3 (1)
消化器科	884 (891)	1539 (1478)	2534 (2111)	78 (80)	356 (350)	0 (1)
呼吸器科	45 (33)	95 (46)	679 (434)	139 (185)	833 (1159)	0 (0)
外科	508 (497)	5630 (5111)	8829 (7614)	317 (368)	1320 (1713)	0 (1)
呼吸器外科	0 (119)	0 (1078)	0 (2931)	0 (20)	0 (137)	0 (0)
小児外科	35 (32)	145 (89)	186 (106)	3 (4)	13 (23)	0 (0)
泌尿器科	168 (193)	939 (1021)	1334 (1263)	1155 (1229)	2333 (2503)	0 (0)
婦人科	303 (343)	2303 (2615)	2897 (3109)	1256 (1307)	1859 (1899)	0 (0)
形成外科	160 (142)	268 (262)	490 (377)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
整形外科	42 (59)	78 (119)	244 (258)	110 (121)	274 (310)	0 (0)
耳鼻咽喉科	16 (18)	23 (38)	96 (105)	10 (14)	42 (45)	0 (0)
歯科口腔外科	116 (101)	189 (155)	419 (370)	0 (1)	0 (4)	0 (0)
皮膚科	34 (42)	47 (57)	182 (174)	0 (2)	0 (7)	0 (0)
脳神経外科	13 (8)	34 (31)	173 (63)	1 (2)	4 (4)	0 (0)
神経内科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (11)	0 (22)	0 (0)
小児科	0 (4)	0 (4)	0 (0)	7 (7)	20 (17)	0 (0)
眼科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	9 (0)	0 (0)
人間ドック	41 (41)	41 (39)	51 (44)	734 (746)	1684 (1768)	0 (0)
循環器科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (6)	43 (35)	0 (0)
その他	0 (0)	0 (0)	0 (70)	6 (9)	6 (10)	0 (0)
合計	2382 (2530)	11360(12148)	18380(19137)	3842 (4136)	8857(10085)	3 (10)

15. 歯科口腔外科

2018.1.1～12.31臨床統計 口腔外科台帳からのデータ.

表1 2018年新患

年間新患数	832例	
(内訳)院外紹介	639例	76.8%
院内紹介	120例	14.4%
救急センター	65例	7.8%
その他	8例	1.0%

表2 口腔外科外来受診症例

日本口腔外科学会受診症例調査票に基づいた統計

(例)

先天異常・発育異常	唇裂口蓋裂	唇(顎)裂	1	口腔粘膜疾患	口腔乾燥症	3	唾液腺疾患	唾液腺炎	3
		口蓋裂	0		白板症	7		唾石症	2
		唇顎口蓋裂	2		扁平苔癬	12		唾液腺腫瘍	1
		その他の唇顎口蓋裂	0		ウイルス性疾患	0		良性唾液腺腫瘍	1
	顎変形症	下顎前突症	12		その他の口腔粘膜疾患	44		悪性唾液腺腫瘍	1
		その他の顎変形症	9						
		その他の先天異常・発育異常	0	囊胞	歯原性嚢胞	30	癌腫	口唇	0
					非歯原性嚢胞	2		頬粘膜	0
					軟組織嚢胞	18		歯肉	4
					良性腫瘍及び腫瘍類似疾患	エナメル上皮腫		口蓋	0
外傷	骨折	歯槽骨骨折	0		その他の歯原性腫瘍	0		舌	3
		上顎骨骨折	8		非歯原性腫瘍	3		口底	0
		下顎骨骨折	5		腫瘍類似疾患	29		肉腫	0
		頸骨・頸骨弓骨折	6					悪性黒色腫	0
		歯の外傷	9					悪性リンパ腫	1
		軟組織創傷	50					その他の悪性腫瘍	0
				歯科心身症	歯科心身症	6			
					顎関節症	16			
					顎関節脱臼	6	歯	P, Perなど	152
					顎関節強直症	0		Perico、埋伏歯、位置異常	284
炎症	顎骨炎	膿瘍	15		咀嚼筋腱・腱膜過形成症	0		該当項目なし	57
		BRONJ	4						
		その他の顎骨炎	11						
		上顎洞炎	8						
		特異性炎	0						
		インプラント周囲炎	3	神経性疾患	神経痛	5			
					神経麻痺	1			
					非定型顔面痛	4			
		睡眠時無呼吸症候群	0		その他の神経性疾患	0			
		インプラント症例	0						

表3 入院統計

疾患分類	(例)	(%)
顎変形症	15	9.6
骨内プロレート	10	6.4
悪性腫瘍	12	7.7
良性腫瘍・嚢胞	19	12.2
炎症	17	10.9
外傷	7	4.5
抗凝固剤投与状態	14	9.0
埋伏歯・歯槽/補綴前外科	54	34.6
その他	8	5.1

総症例数	156
複数回入院	9
前年からの越年入院	2
Sterben	4

表4 手術統計

日本口腔外科学会専門医制度の手術難易度区分表に基づいた統計

表4A 外来小手術統計

分野記号	レベルI 基 本	レベルII 中 難 度	レベルIII 高 難 度	レベルIV 超 高 難 度	合 計	
A-1	223	12			235	68.9%
A-2	4				4	1.2%
A-3	1				1	0.8%
B-1	6	4			10	2.9%
B-2	48				48	14.1%
B-3	6				6	1.8%
B-4					0	0.0%
C-1	10				10	2.9%
C-2	2				2	0.6%
C-3					0	0.0%
D-1					0	0.0%
D-2					0	0.0%
D-3					0	0.0%
その他	上記に含まれない生検などの小手術 (ただし、普通抜歯は含まず)				25	7.3%

総数341術式（複数分野施行は3術式）

表4B 手術センター手術統計

分野記号	レベルI 基 本	レベルII 中 難 度	レベルIII 高 難 度	レベルIV 超 高 難 度	合 計	
A-1	15	50			65	39.6%
A-2	1				1	0.6%
A-3	1	1			2	1.2%
B-1		1	1	1	3	1.8%
B-2	20	1			21	12.8%
B-3			1	1	2	1.2%
B-4					0	0.0%
C-1	2	4			6	3.7%
C-2	21	4	16	4	45	27.4%
C-3					0	0.0%
D-1	2	4	3		9	5.5%
D-2			1		1	0.6%
D-3		1	3		4	2.4%
その他	上記に含まれない手術				5	3.0%

126症例に対して、164術式（複数分野施行38術式）施行した。

全麻：107例、IV-S：12例、局麻：7例。

<分野記号：分野名>

A-1：歯・歯槽外科手術、A-2：補綴前外科手術/頸堤形成手術/骨移植手術、A-3：口腔インプラント関連手術

B-1：消炎手術、B-2：良性腫瘍・囊胞・腫瘍形成疾患等の手術、B-3：唾液腺関連手術、B-4：上顎洞関連手術

C-1：顎顔面外傷手術/異物除去手術、C-2：顎変形症関連手術/顎顔面骨延長術、C-3：顎関節手術および関連処置

D-1：癌/前癌病変関連手術および処置（唾液腺悪性腫瘍は別掲）、D-2：再建外科手術、D-3：口唇裂・口蓋裂関連手術

16. 中央検査科

2018年は医療法の改正があり、各種書類の整備に追われ忙しい一年となった。検査の状況としては検体検査は1.02%の減、生理検査は12.11%の減小なった。生理検査の減少は心電図、呼吸機能検査の減少が大きい。これに関しては呼吸器外科の医師の不在が大きく影響したと考えられる。また技師心エコーの減少が目立つこれは、2018年4月から循環器の医師が検査科専従医師に就任したため技師心エコー検査が医師心エコーに流れたためと考える。

専従医師の確保により検体管理加算がⅡからⅣに上がり、2018年度は大きく増収となった。

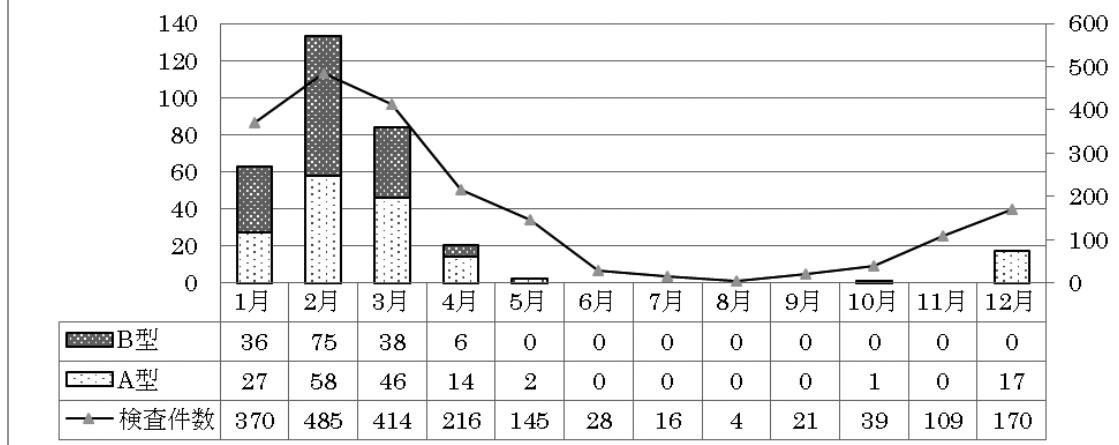
【検体検査】

	2017年	2018年	増減率%
化 学	1,338,181	1,332,411	-0.43
血 液	161,714	159,569	-1.33
血 清	73,977	72,804	-1.59
一 般	46,870	44,398	-5.27
細 菌	37,134	34,227	-7.83
(迅 速)	5,025	5,913	17.67
(一般菌)	32,109	28,314	-11.82
輸 血	10,165	10,038	-1.25
委 託	17,741	17,691	-0.28
合 計	1,685,782	1,705,365	-1.02

【生理検査】

	2017年	2018年	増減率%
心 電 図	6,618	6,074	-8.22
ホルター心電図	253	222	-12.25
自 律 神 経	4	0	-100.00
呼 吸 機 能 検 査	2,060	1,548	-24.85
薬剤負荷心電図	35	39	11.43
ト レ ッ ド ミ ル	120	79	-34.17
心 力 テ	285	227	-20.35
PSG睡眠時無呼吸	4	10	150.00
脳 波	387	331	-14.47
針 筋 電 図	1	2	100.00
神 経 伝 導 速 度	243	245	0.82
聴 力 検 査	894	919	2.80
尿 素 呼 気 試 験	162	182	12.35
心 エ コ ー (技師)	711	493	-30.66
腹部エコー(技師)	1,173	1,213	3.41
甲状腺エコー(技師)	156	153	-1.92
乳腺エコー(技師)	590	582	-1.36
頸動脈エコー(技師)	16	24	50.00
表 在 エ コ ー	44	35	-20.45
下肢静脈エコー	45	35	-22.22
皮膚灌流圧虚血検査	1	1	0.00
四肢動脈圧検査	69	141	104.35
呼吸訓練(説明)	161	122	-24.22
生理室検査 合計	14,423	12,677	-12.11

2018年インフルエンザ検査状況



17. 薬局

処方箋枚数、注射処方箋枚数、院外処方箋発行率ともほぼ昨年と同様に推移している。

薬剤管理指導件数は、麻薬管理指導加算、退院時薬剤情報管理指導料を除き昨年より減少した。薬剤師の欠員等もあり病棟薬剤業務実施加算の算定と並行して病棟での薬剤師業務を充実させることができなかった。令和元年は現状維持またはそ

処 方 箋 枚 数

	H30	H29	前年比
入院処方箋	82,031	83,202	98.6%
外来(院内) (検査紙等含む)	14,367	14,807	97.0%
院外処方箋	69,636	68,192	102.1%
院外発行率	82.90%	82.16%	100.9%

注射処方箋枚数

	H30	H29	前年比
注射処方箋(入院)	161,882	160,141	101.1%
注射処方箋(外来)	21,916	21,270	103.0%

薬剤管理指導業務

	H30	H29	前年比
指導人數	7,372	8,257	89.3%
指導回数	13,027	13,817	94.3%
通常薬請求件数	5,094	5,377	94.7%
ハイリスク薬請求件数	2,008	2,500	80.3%
麻薬管理指導加算件数	62	44	140.9%
退院時薬剤情報管理指導料算定件数	3,132	2,932	106.8%

抗悪性腫瘍剤調製

	H30		H29		前年比	
	(人數)	(件數)	(人數)	(件數)	(人數)	(件數)
(入院)	1,570	3,010	1,601	2,689	98.1%	111.9%
(外来)	1,492	1,705	1,227	1,449	121.6%	117.7%

I V H 調 製

	H30	H29	前年比
調製本数(成人)	984	364	270.3%
調製本数(小兒)	4,239	3,120	135.9%

れ以上算定できるように努力していきたい。

抗悪性腫瘍剤調製件数は昨年より増加、IVH調製件数は大幅に増加した。

後発品置き換え率については、現在の90%以上を維持するために今後も継続して切り替えを行う。さらに、採用品目の削減も引き続き実施していきたい。

製 剂

	H30	H29	前年比
一般製剤品目数	65	65	100.0%
無菌製剤品目数	28	28	100.0%
調製件数	3,299	4,112	80.2%

臨床試験・製造販売後調査

	H30	H29	前年比
臨床試験	0	0	—
製造販売後調査	29	41	70.7%

持 参 薬 鑑 別

	H30	H29	前年比
鑑別人數	8,276	8,648	95.7%
鑑別件数	13,046	13,559	96.2%

外 来 指 導

	H30	H29	前年比
指導人數	148	172	86.0%

入院時面談

	H30	H29	前年比
面談人數	2,698	2,511	107.4%

後 発 医 薬 品

	H30	H29	前年比
置き換え率(数量ベース)	94.58%	91.68%	103.2%

再 調 劑

	H30	H29	前年比
再調剤件数	1,276	1,419	89.9%

18. リハビリテーションセンター

2018年 リハビリテーションセンター 実施のべ人数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
理学療法	外来	脳血管	11	9	11	9	13	13	14	14	12	11	9	6	132
		運動器	144	194	216	179	184	152	162	137	130	138	132	145	1,913
		呼吸器	1	2	2	1	1	5	2	1	1	0	0	1	17
		心大血管	0	1	0	0	0	0	0	0	2	4	2	3	12
		がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4
		廃用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4
	入院	脳血管	618	591	768	681	792	483	539	594	544	701	666	704	7,681
		運動器	1,228	1,193	1,156	955	963	777	736	1105	694	919	991	1,215	11,932
		呼吸器	185	149	167	303	268	250	347	310	207	257	288	339	3,070
		心大血管	196	211	223	236	185	105	126	114	137	144	167	211	2,055
		がん	241	286	212	148	138	215	128	226	126	185	181	171	2,257
		廃用	368	468	470	474	519	545	600	567	468	671	621	468	6,239
作業療法	外来	脳血管	1	5	5	2	3	2	0	1	1	0	0	0	20
		運動器	191	248	316	252	269	253	228	222	217	248	238	220	2,902
		呼吸器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		心大血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		廃用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	入院	脳血管	599	554	631	563	645	344	397	409	408	481	473	544	6,048
		運動器	93	177	226	86	93	147	154	233	78	131	201	193	1,812
		呼吸器	0	5	23	29	38	43	42	17	20	50	75	43	385
		心大血管	8	6	0	4	11	1	17	14	43	79	48	13	244
		がん	3	2	0	0	7	37	30	41	24	22	1	0	167
		廃用	35	27	65	42	90	109	90	105	79	131	83	101	957
言語療法	外来	脳血管	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
		運動器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		呼吸器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		心大血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		がん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		廃用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	脳血管	327	335	366	286	337	195	256	272	231	265	271	317	3,458
		運動器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		呼吸器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		心大血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		がん	0	0	0	0	2	18	2	0	0	1	1	2	26
		廃用	0	1	0	8	0	5	1	36	36	83	85	19	274
摂食療法	外来	脳血管	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入院	脳血管	207	114	145	244	251	204	174	172	177	234	195	190	2,307

給食の状況

1. 栄養指導回数及び延人員

区分 年度	胃			腸			病			肝			臓			病			心			臓			病		
	件数	患者	人員	件数	患者	家族	人員	件数	患者	家族	人員	件数	患者	家族	人員	件数	患者	家族	人員	件数	患者	家族	人員	件数	患者	家族	人員
28	461	461	803	6	6	2	8	11	11	7	18	141	141	78	219	383	383	130	513								
29	603	603	912	8	8	3	11	26	24	50	171	171	95	266	398	398	107	505									
30	555	555	822	12	12	6	18	48	48	72	142	142	98	240	463	463	127	590									

(単位：件、人)

19. 病

(単位：件、人)

辨

区分 年度	一般食			特別食			給食総数			一日平均給食人員			給食総数に対する割合											
	件数	163,042	(内特別食加算 101,631)	件数	191,156	(内特別食加算 101,631)	件数	354,198	(内特別食加算 88,329)	件数	354,523	(内特別食加算 100,001)	件数	972,0	(内特別食加算 190,811)	件数	978,0	(内特別食加算 100,001)	件数	968,0	(内特別食加算 100,001)	件数	28.7%	
28																								
29																								
30																								

(単位：件)

辨

区分 年度	塩制限食			透析食			蛋白制限食			エネルギー制限食			脂肪制限食			胃切除食			腸切除食			学童児食			やわらかご飯食						
	件数	23,931	6,351	7,837	31,165	6,750	5,025	2,309	2,438	3,204	8,423	8,784	41	14,142	70,756	191,156	件数	25,090	5,364	7,569	37,350	4,056	5,249	1,572	2,827	4,176	7,939	11,985	28	12,872	52,926
28																															
29																															
30																															

(単位：件)

辨

(単位：件)

20. 平成30年度糖尿病委員会活動報告

メンバー紹介

医師：須田 克幸・竹田 文洋

臨床検査技師：大塚 隼人 高橋 希 理学療法士：佐太木 淳一 五十嵐 健文 管理栄養士：澤井 寛子

助産師：後藤 千恵 看護師：佐藤 恵美 斎藤 まゆ 鈴木 大地 菅原 明日香 五十嵐 初美 佐藤 美香

薬剤師：鎌田 敬志

1、定例委員会 毎月1回 開催 (第1火曜日)

2、糖尿病教室 毎月第2金曜日 14:00~15:00

期 日	内 容	講 師	参加者
4月10日	健康診断 受診はいつするの? 知って安心 数値の意味	看護師 検査技師	1名
5月8日	糖尿病って、どんな病気？ 他の病気との関係 生活改善 セルフチェック！	内科医師 看護師	4名
6月5日	熱中症予防 一夏場の水分補給の仕方— 無理なく継続 運動療法 "雨の日のひとつくふう"	看護師 理学療法士	1名
7月3日	糖尿病の食事は どんな食事？	管理栄養士	4名
8月7日	シックデイ（病気の日） の対処と予防 低血糖のお話	看護師 薬剤師	2名
9月4日	知ってますか？ 糖尿病と腎臓の関係 家庭で血圧を測ろう	内科医師 看護師	9名
10月2日	～特別企画～健康まつりから	看護師	0名
11月6日	糖尿病と歯周病 歯磨き実践（ブラークコントロール） 年末年始の食事について 感染予防対策	歯科衛生士 看護師	2名
12月4日	静かなる敵 糖尿病性神経障害 早期発見と予防（フットケアってなあに）	看護師	2名
1月8日	静かなる敵 糖尿病性網膜症 早期発見と治療について 糖尿病とストレス ストレスをためない自己管理法	眼科医師 臨床心理士	4名
2月4日	旅行・災害時の備え 外食の仕方と災害時の食事 糖尿病のお薬の話 —インスリン・飲み薬の効果—	看護師 薬剤師	4名
3月4日	糖尿病と妊娠	看護師	3名

3、糖尿病だより（患者向け広報）発行：月1回

平成31年3月までで、第279号となった。

4、院内研修会

期　　日	内　　容
平成30年7月3日(火) 17:30~18:30 講堂 委員会主催	講演「血糖測定について(機種・方法・指導)」 グループディスカッション:「インシデント事例から考える」 事例について話し合いグループ毎に発表
平成30年12月4日(火) 17:30~18:30 講堂 委員会主催	講義:運動療法について 実演:みんなで運動してみよう

5、院外発表

◎第9回庄内薬剤師糖尿病講演 2018年6月23日 庄内病院講堂

「プロポフォールの術後血糖コントロール不良への影響が考えられた1症例」

鶴岡市立庄内病院診療部薬局 富樫 敦子

◎第7回日本くすりと糖尿病学会学術集会 2018年10月13日・14日 名古屋

「山形県内病院における『低血糖時対応』の調査と課題」

鶴岡市立庄内病院診療部薬局 鎌田 敬志

独立行政法人山形県・酒田市病院機構日本海総合病院薬剤部 成田 康之

医療法人徳洲会庄内余目病院診療技術部薬局 鈴木 悠太

◎日本糖尿病学会第56回東北地方会 2018年11月17日仙台

「『インクレチノン、SGLT2阻害薬』と『SU薬、グリニド薬、インスリン注射薬』の組み合わせ処方の調査と課題」

鶴岡市立庄内病院診療部薬局 鎌田 敬志 同看護部 阿部 優子、佐藤 恵美、富樫 恵美、

齋藤 まゆ 押井 あけみ 百瀬 幸

独立行政法人山形県・酒田市病院機構日本海総合病院薬剤部

菅原 しおり 石川 大介 成田 康之

医療法人徳洲会庄内余目病院診療技術部薬局 鈴木 悠太

6、その他の活動

- ・フットケア外来を内科外来及び血液浄化センターにて実施し、内科外来延べ78件/年、血液浄化療法センター述べ465件/年でセルフケア、悪化予防が図られている。
- ・内科外来において透析予防指導管理を開始し136件/年で、透析予防のための療養支援を行っている。
- ・在宅妊娠糖尿病患者の指導を開始し10件/年で、療養支援を行っている。
- ・糖尿病教室を1回/月、外来第1相談室で、糖尿病患者もしくはご家族、興味がある方を対象にし、月ごとにテーマを決め実施している。参加者は、29人/年である。

- ・鶴岡市健康まつり 平成30年10月7日（日） 小真木原総合体育館 多目的ホール
糖尿病ケアチームとして参加しようと準備（台風のため中止）

〈学会・研修会への参加〉

- ・第61回日本糖尿病学会年次学術集会 2018年5月24日（木）～26日（土）東京
リハビリテーションセンター：五十嵐 健文
- ・第6回糖尿病療養指導学会学術集会 2018年7月28日（土）～29日（日）京都
リハビリテーションセンター：佐太木 淳一
- ・第23回日本糖尿病教育・看護学会学術集会 2018年9月23日（土）～9月24日（日）茨城
6階西入院棟：鈴木 大地
- ・フットケア研修会 2018年10月14日（日）函館 形成外科外来：三浦 嘉
- ・日本糖尿病学会第56回東北地方会 2018年11月17日（土）仙台 薬局：荒井 真智子
- ・第34回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会 2018年11月23日（金）～24日（土）横浜
4階西入院棟：後藤 千恵
- ・第54回糖尿病学の進歩 2019年3月1日（土）～2日（日）青森 薬局：鎌田 敬志

21. N S T (栄養サポートチーム: Nutrition Support Team) 委員会活動報告

1. N S T委員会 委員

大滝雅博(医師) 安宅 謙(医師) 坂本 薫(医師) 五十嵐敬郎(医師) 原 太一(歯科医師)
 井上裕子(看護師) 石井 佳(看護師) 高橋知枝(看護師) 富樫悠奈(看護師) 田中 康(薬剤師)
 佐藤拓也(薬剤師) 富樫博子(管理栄養士) 工藤優子(管理栄養士) 佐藤知子(管理栄養士)
 鈴木貴志(臨床検査技師) 高橋裕美(臨床検査技師) 五十嵐知依(言語聴覚士) 濱尾章央(理学療法士)
 石垣佑美(歯科衛生士)

2. 活動内容

N S T委員会は、主に栄養に関わる管理、提言、啓蒙などの活動を行っている。平成17年より本格的な活動を開始し、引き続き回診・レクチャーなどを中心に活動を行った。

● スクリーニング(入院時初期評価)

入院患者に対し、スクリーニングと栄養管理計画書

2018. 1~2018.12までのスクリーニング実施数10296名、N S T介入依頼数は78名であった。

● 回診(毎週木曜日)

定例回診数 49回

新規紹介患者 105名(男性 54名、女性 51名)

回診延べ患者 380名

平均年齢 74.7歳(15-100)

うち褥瘡保有患者 13名(11.1%)

●介入患者の分析

- 介入時の栄養状態が低下しているほど死亡の転帰をたどる症例が多く、在院日数が長かった。

介入時栄養状態 と 最終転帰・在院日数について					
栄養不良なし	8	自宅・施設退院	5	転院	2
		死 亡	1	平均在院日数	47.1日
軽度栄養不良	33	自宅・施設退院	9	転院	20
		死 亡	4	平均在院日数	48.8日
中等度栄養不良	54	自宅・施設退院	27	転院	11
		死 亡	16	平均在院日数	53.0日
高度栄養不良	10	自宅・施設退院	1	転院	5
		死 亡	4	平均在院日数	49.0日

●ワーキンググループ活動

- ガイドライン: 経管栄養・嚥下・口腔ケア・静脈栄養について運用中

● 広報活動

- NST通信、莊内病院ホームページ

● 教育活動（セミナー・学習会など）

院内学習会

- 2月8日 1部：経腸栄養、下痢の対応
 2部：栄養に関連した検査
 3部：In body（体成分分析装置）
- 3月15日 症例報告
- 6月26日 食事・経口栄養
- 10月25日 病院から在宅へつなぐ栄養管理
- 12月3日 経腸・静脈栄養の基礎

●学会・セミナー参加・報告

第16回 山形NST研究会（9月14日） 一般演題口頭発表 五十嵐知依（言語聴覚士）
 タイトル：舌癌化学療法後に一時的な栄養強化を行い経口摂取に至った一症例
 ～オーラルフレイルの段階でNSTが介入できなかった事例を通して～

3. 入院棟栄養カンファレンス

入院患者に対する「NST管理システム」を電子カルテ上で入力し、入院棟における定期的な評価（栄養カンファレンス）を多職種で実施し適切な栄養管理に取り組んでいる。

4. 今後の課題

- 1) NST基準の栄養不良判定の作成と提示、抽出、フィードバック
- 2) 各部門・各職種の活動内容の評価・発表
- 3) コンサルテーションシステムの確立
- 4) 口腔ケアの充実
- 5) リハビリテーション栄養への取り組み
- 6) 他チームとの連携と情報共有
- 7) 退院後の栄養管理継続のための地域連携
- 8) NSTスタッフ、職員の啓蒙とスタッフのレベルアップ

22. 緩和医療委員会の活動報告

1. メンバー紹介（14名）

医師 2 名、薬剤師 1 名、理学療法士 1 名、管理栄養士 1 名（がん病態栄養専門管理栄養士 1 名）

看護師 9 名（緩和ケア認定看護師 2 名、がん化学療法看護認定看護師 1 名、乳がん看護認定看護師 1 名）

2. 緩和医療委員会の活動内容

1) 患者・家族会：季節を感じ、気分転換を図ることで、闘病生活のなかでのモチベーションアップや前向きな気持ちにつながる機会をつくるために開催。ハープ演奏のボランティアもご協力いただき、患者・家族・スタッフも癒しの場となった。

4月14日 お花見会 8月20日 花火鑑賞会

12月15日 クリスマス会

2) グリーフカード：大切な方を亡くしたご家族のグリーフケアとして作成。7月、12月、3月に36名に発送。3名から手紙や電話で連絡があり、看護師の関わりに対する感謝の言葉などを頂いた。

3) 院内教育活動：緩和ケアステップアップ講座開催

昨年度と同様に 5 回開催。第 1 ~ 3 回は 10 ~ 20 名前後の参加者数だったが、第 4 、 5 回目は 30 名以上の参加があり、関心の高さが伺えた。

- 平成30年6月21日 「痛みの評価とオピオイドの基礎」 高橋 直子
- 平成30年7月19日 「リンパ浮腫について」 蛸井 宏美
- 平成30年9月20日 「看取りのケア～看取りのパンフレットを活用して」 風間 千沙子、大瀧 圭
- 平成30年11月15日 「緩和ケアにおけるペインクリニック領域の治療～がん疼痛を中心に～」
菊池 元
- 平成31年2月21日 「『人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン』について」 和泉 典子

4) その他

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会（PEACEプロジェクト）開催（10月 7 日、8 日）



患者・家族会の様子



第4回ステップアップ講座の様子

3. 緩和ケア依頼件数

平成30年度の緩和ケア依頼人数は90件（図1）であった。診療科別依頼は外科25件、消化器内科21件、婦人科13件の順に多く昨年と比較すると婦人科の割合が増加していた。

依頼内容は総数277件と、昨年度より100件以上減少している。これは、昨年までは現在ある症状すべてを依頼項目として上がることが多かったが、問題点を整理してチーム依頼している結果と考えられる。内容の内訳は、患者の精神的支援46件、精神症状40件、在宅療養調整・退院支援32件の順に多かった。今後は、スタッフが精神的支援に関われるような教育体制を整えていく必要がある。

«グラフ»

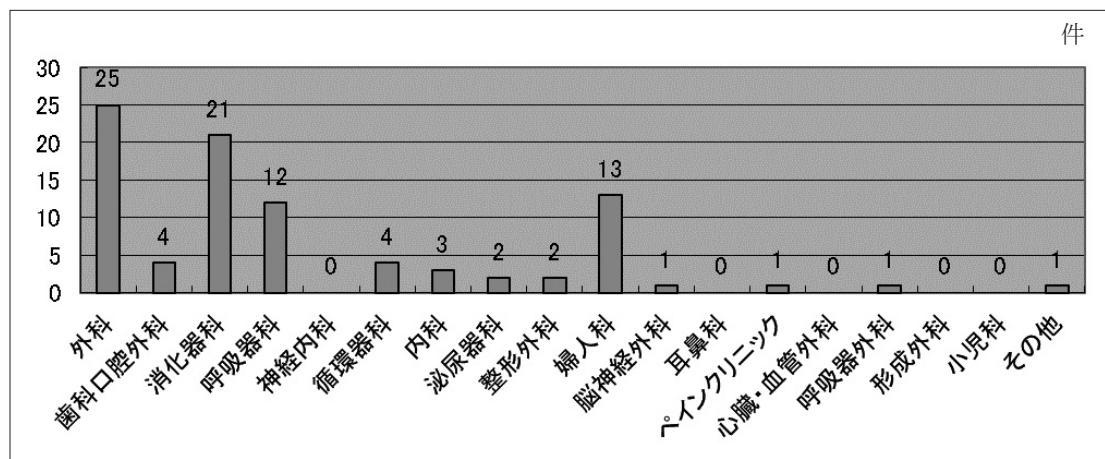


図1 診療科別依頼件数

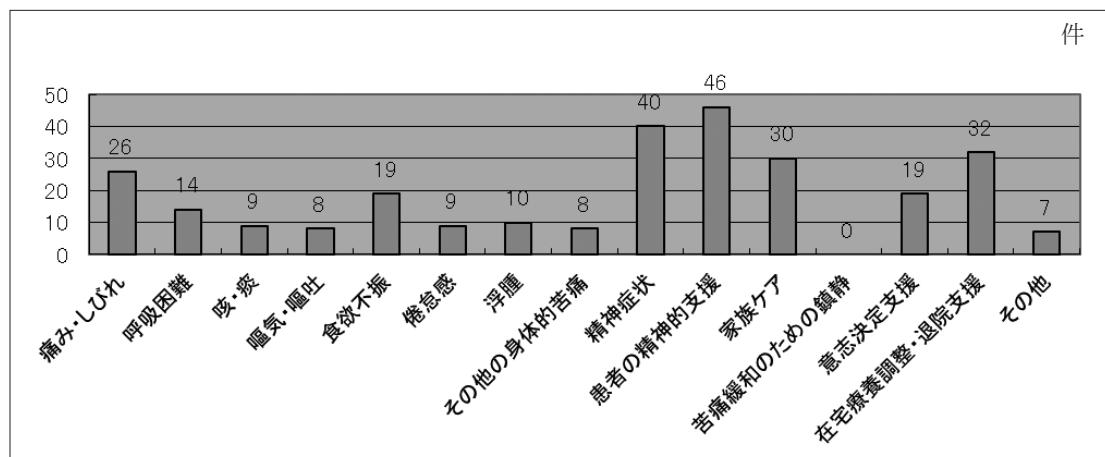


図2 PCT依頼内容（重複含む）

4. 講演会・研究会一発表、論文

- スキルをみがく地域医療連携実践ゼミナール 平成30年3月13日（鶴岡）
「がん緩和ケア『庄内プロジェクト』で地域はどのように変わったか」 鈴木 聰
- 2018年度第1回庄内プロジェクト緩和ケアを学ぼう会 平成30年6月5日（講堂）
「本人の意向に沿った人生の最終段階における意思決定を支えるために-厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」（平成30年3月改訂版）を知っていますか」 和泉 典子
- 第23回日本緩和医療学会学術大会 平成30年6月15.16日（神戸）
「当院職員のアンケート調査からみえてきた『終末期患者の栄養補給』に関する意識」 上林 沙希子
- 鶴岡市保健衛生推進連合会総会 平成30年6月22日（鶴岡）
「最期まで自分らしく生きるために-自分や大切な人の「人生観」や「もしものとき」を話し合うことで、今を大切にいきよう-」 和泉 典子
- 山形県立鶴岡南高校学校英語ディベート大会出場1-2年生有志 平成30年7月6日（鶴岡）
「回復の見込みがない病による「耐えがたい苦痛」にどう対応するか-緩和ケアと終末期の意思決定」 和泉 典子
- 2018年度第1回病院勤務医と医師会会員との懇談会 平成30年7月27日（鶴岡）
「最期まで自分らしく生きるー本人の意向を尊重するためのアドバンス・ケア・プランニングー」 和泉 典子
- 庄内緩和医療研究会 平成30年9月8日（酒田）
「終末期せん妄による身の置き所のなさが続き、鎮静に至った一事例」 上林 沙希子
- 22nd International Congress on Palliative Care Oct. 2-5,2018(Montreal)
「View about "How Nutritional Support for Patients in the Terminal Phase Should be". Revealed through Survey of the Staff Members at Our Hospital」
Satoshi Suzuki, Sakiko Kanbayashi, Michiko Abe and Noriko Izumi
- 鶴岡市第6学区ふれいあい健康講座 平成30年11月10日（鶴岡）
「最期までじぶんらしく生きるためにー自分や大切な人の「人生観」や「もしものとき」を話し合うことで、今を大切に生きようー」 和泉 典子
- 緩和ケア出張研修会 平成30年11月20日（介護老人保健施設みづばしょう）
「人生の最終段階における意思決定を支えるために」 上林 沙希子
- 鶴岡みらい健康調査セミナー 平成30年12月16日（鶴岡）
「がんとともに働く・生きる-病院医師・産業医の視点から」 和泉 典子
- 緩和ケアを学ぼう会 平成31年3月5日（鶴岡）
「看取りのケア」 上林 沙希子

5. 今後の課題

- 1) パンフレット・マニュアルの見直し
- 2) がん患者スクリーニングの実施

23. 褥瘡予防対策委員会の活動報告

1. メンバー紹介（平成30年4月現在）

褥瘡対策委員会

佐藤 和彦（委員長：医師） 梅本 貴子（副委員長：皮膚・排泄ケア認定看護師） 小池 千里（医師）
 大滝 雅博（医師） 菅原 広光（医事） 百瀬 幸（看護師） 成澤 恵美（看護師） 佐藤 南（看護師）
 阿部 由香（看護師） 三浦 嘉（看護師） 富樫 敦子（薬剤師） 五十嵐 昌美（薬剤師）
 佐藤 田鶴（管理栄養士） 五十嵐 幸広（理学療法士） 田中 寿夫（総務） 事務局：佐藤 美津子

褥瘡予防対策リンクナース

松川 瑞希 菅原 彩 松本 美香 熊田 成美 豊田 みゆき 林 理絵 斎藤 美香
 長谷川 智子 佐藤 淳子 佐藤 仲子 今野 優喜 菅原 美奈子 小野寺 ひろみ

2. 褥瘡予防対策委員会の組織

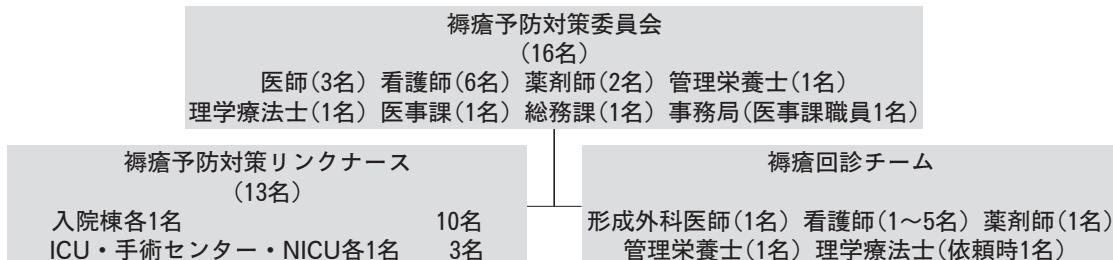


図1 組織図

本委員会は、迅速な褥瘡予防対策・強化を図ると共に、適切な褥瘡ケアを提供し早期改善・早期治癒・在宅を視野において連携強化を目標に活動している。リンクナースを委員会の下部組織として、褥瘡リスクアセスメントをはじめとし、体圧分散寝具の選択、ケアマニュアルの評価、現場スタッフ教育を行い、褥瘡回診チームはベッドサイドでの総合的なケアを実践し活動している。

3. 褥瘡委員会の活動

○ 褥瘡予防対策委員会

- ・年 6回 委員会開催
- ・年 2回 褥瘡研修会
- ・年 1回 山形在宅褥瘡セミナー (鶴岡10/20)
- ・年 5回 「WCT Times」の発行
- ・月 1回 褥瘡予防・スキンケアラウンド

○ 褥瘡回診チーム

- ・週 1回 褥瘡回診・カンファレンス

- 褥瘡予防対策リンクナース
 - ・月1回 会議
 - ・月1回 褥瘡予防・スキンケアラウンド
 - ・褥瘡回診同行
 - ・各入院棟専任褥瘡管理者
- その他
 - ・体圧分散寝具、ポジショニングクッション検討・導入

褥瘡予防に向けた職員教員および地域住民への教育強化のための在宅セミナーを開催。院内では、褥瘡管理システムが運用され定期的な評価を行うことでスタッフのアセスメント力が向上し、スタッフの褥瘡予防に対する意識を高めることにつながっている。同時にエアマットが適正使用できるよう電子カルテ上で管理・運用を開始しタイムリーな導入および適正使用を図っている。月1回の定期的なラウンドでは、効果的なポジショニングの検討・予防的スキンケア徹底に向けての指導を強化している。

4. 褥瘡研修会の開催

期　　日	内　　容	参　加
平成30年9月4日（火） 18：00～19：00	スキンケア（皮膚損傷） つくりない！できてしまったら正しく直す 鶴岡市立莊内病院 褥瘡予防対策チーム メンバー	院内 62名 院外 35名 計 97名 参加
平成31年2月26日（火） 18：00～19：00	つなげる褥瘡ケア ～地域と病院・共通の評価を目指して～ 鶴岡市立莊内病院 褥瘡予防対策チーム メンバー	院内 15名 院外 21名 計 36名 参加

5. 院外発表

- ・「臨床現場抜き打ち実態調査からみた褥瘡新規発生の要因」 三浦 嘉
第20回日本褥瘡学会学術集会 平成30年
- ・「傷と薬」 富樫 敦子
第12回日本褥瘡学会 山形在宅褥瘡セミナー：鶴岡 平成30年

6. 平成30年度褥瘡に関するデータ報告と分析

- ① 褥瘡有病率：3.32%（前年度4.14%）
(日本褥瘡学会2010年調査：2.94%)
- ② 褥瘡推定発生率：0.90%（前年度1.24%）
(日本褥瘡学会2010年調査：1.40%)
- ③ 褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定件数：744件（前年度918件）
 - *有病率（%）＝褥瘡保有者／調査日の入院患者数（24時時点+退院患者）×100
 - *発生率（%）＝入院後褥瘡発生患者数／調査日の入院患者数（24時時点+退院患者）×100

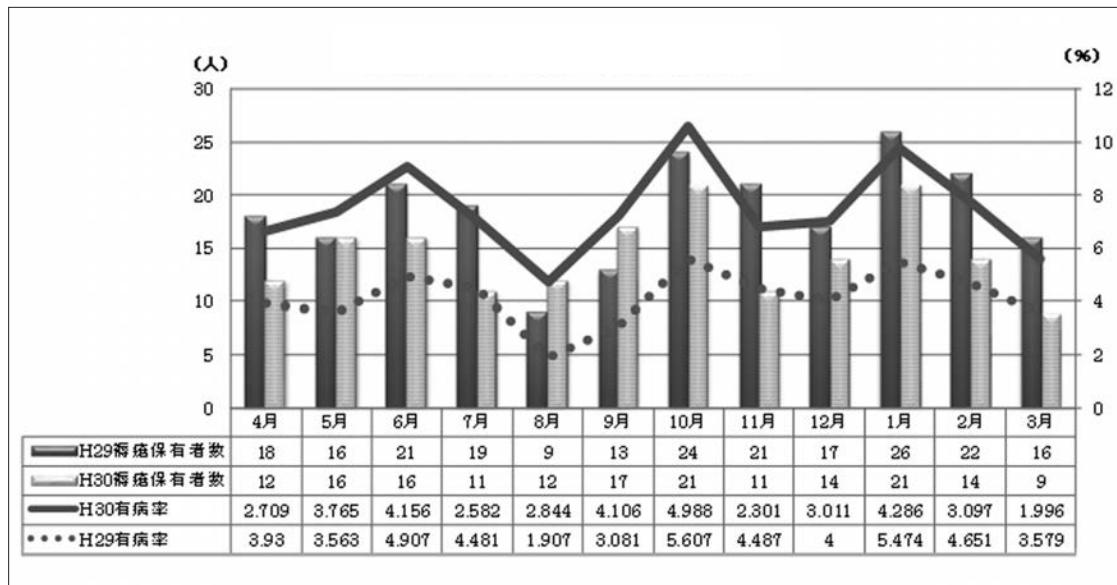


図2 褥瘡保有者数と褥瘡有病率

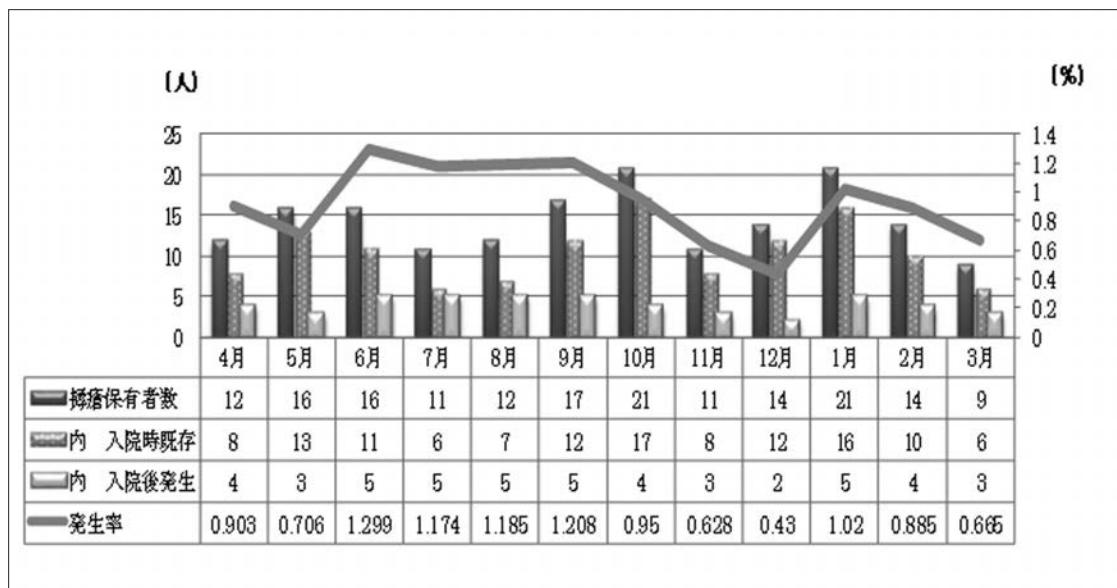


図3 H30年度褥瘡保有者数と発生率

前年度比で有病率は前年度平均4.14%から3.32%に減少した。この背景には市民の褥瘡予防に対する意識の向上があると思われる。

入院後の発生率は0.9%と前年度1.24%から減少し目標に達することができた。来年度は0.8%を目標にしたい。

しかしながら庄内南部地域は全国に比較しても高齢化であり、老老介護などマンパワー不足も褥瘡保有者が減少しない一因であると考えられる。

入院当初から効果的な除圧が行えるようにポジショニングに関する物品を増やしてきた。おかげで入院後の発生は増えてはいない。

しかし医療関連機器圧迫創などの増加も懸念されるところである。

また在宅においては情報提供や知識の普及と共有をめざし、市民の褥瘡予防に対する意識向上に努めていきたいと思っている。

7. 今後の課題

1. 褥瘡管理システムの効果的活用によるリスクアセスメントの実施とケア実践
2. 体圧分散寝具・高機能エアマットの効果的な運用と適正配置
3. 多職種協働による予防対策の徹底
4. 地域連携強化に向けた退院前カンファレンスの定着
5. 在宅につながる情報の共有化
6. スキンケアの標準化

24. ICT (Infection Control Team) • AST (Antimicrobial Stewardship Team) 活動報告

1. メンバー紹介

● I C T

鈴木 聰・菊池 元（感染制御ドクター）佐藤 昂・林 晃久（医師）中嶋 知子・秋葉 彩楓（臨床検査技師）
田中 大輔・草島 宏平（抗菌化学療法認定薬剤師・感染制御認定薬剤師）佐藤 諒平（作業療法士）
若松 由紀子・栗田 香（感染管理認定看護師）大島 幸子・庄司 敦子・本間 春圭・難波 佳那（看護師）

● リンクナース

立里 千咲、佐藤 佳織、金内 し乃、井上 悠、太田 有紀、田中 亜美、斎藤 静香、上林 伶未音、
五十嵐 麻美、伊藤 千加、川口 奈々、水上 由美子、栗本 こすも、田村 和江、佐久間 有紀、斎藤 千夏

2. 院内活動

● 定例会議

- ICC会議（毎月第1月曜日）
- ICT・AST会議（毎月第2木曜日）
- 感染対策リンクナース会議（毎月第4水曜日）

● ICTラウンド・カンファレンス

- 血液培養陽性患者カンファレンス・ラウンド（毎週水曜日）
- 指定抗菌薬使用患者カンファレンス（毎週水曜日・毎週金曜日）
- 環境ラウンド（毎週水曜日）：入院棟・集中ケア部門、中央・外来部門、コメディカル部門、委託部門
- SSIラウンド（毎週火・水・金曜日）：整形外科人工関節置換術および脊椎手術・外科開腹術
- 経路別対策遵守状況確認ラウンド（患者発生時）

● 研修会の開催（全職員対象必須研修）

- （1）開催日：①2018年7月10日 ②2018年7月13日

テーマ：「抗菌薬は効果的かつ大切に使おう＆あんな時こんな時の接触感染対策」

講 師：佐藤 昂（呼吸器科医師）・林 晃久（小児科医師）

草島 宏平（抗菌化学療法認定薬剤師）・若松 由紀子（感染管理認定看護師）

受講者：658名（DVDおよびeラーニング受講者を含む）

- （2）開催日：①2019年1月22日 ②2019年1月25日

テーマ：「結核を見逃さない」

講 師：河上 英則（呼吸器科医師） 中嶋 知子（臨床検査技師）

受講者：654名（DVDおよびeラーニング受講者を含む）

● 広報活動

- ICTニュース（No.41～42）
- インフルエンザ情報誌（No.47～52）

● 感染症対策の見直し・導入

- （1）手荒れ防止対策強化

- 泡ハンドソープEX-CAREコンパクト導入

(2) 針刺し防止対策強化

- ・分注ホルダー導入
- ・10ml以上のアンプル廃棄方法の変更（針捨てボックスへ）
- ・採血ホルダー廃棄方法の変更（採血ホルダー専用一時針捨てボックス作成）

(3) CD交差感染防止対策強化

- ・清拭ケア時の看護師の動線の変更

(4) 感染対策マニュアル作成・修正

- ・ベスプラ手順：CVC挿入時のマキシマルバリアプリコーション
- ・ベスプラ手順：末梢ラインのヘパリンロックと接続

●施設間連携

- ・相互ラウンド：年2回（日本海総合病院、新庄病院）
- ・合同カンファレンス：年4回（こころの医療センター、庄内余目病院、協立病院、地域の老健施設）
- ・教育支援：多機能かも 介護予防教室 「冬に流行する感染症からみんなを守ろう」

3. 院外活動

(1) 学会・研究会等発表

- ・第10回 J 感染制御ネットワークフォーラム一般演題

「手術部位感染対策についての理解度調査 ーリンクナースによる学習会の効果ー」：栗本 こすも

(2) 執筆

- ・病院広報誌 黎明 「抗菌薬適正使用支援チームの取り組み」：草島 宏平
- ・ICTジャーナル：「Basic 腸管感染予防策における行動規範①隔離予防策」：若松 由紀子

(3) その他

- ・エコキャップ回収運動への参加

4. トピックス

●抗菌薬適正使用支援チーム（AST）発足について

H30年度診療報酬改定に伴いASTが発足した。「感染症治療を討議・検討し、主治医が抗菌薬を適正に使用し、感染症治療を最適化できるよう支援し、その効率的な推進を図る」ことを目的に、これまで行なってきた血培ラウンドを継続し、指定抗菌薬使用患者のカンファレンスを開始した。12月には山形大学附属病院のA S T活動を見学し、当院の活動のあり方を考える機会となった。次年度は、主治医に対する介入はもとより、各科の感染症診療についてリンクドクターと共に課題改善を図りたいと考える。

●血液浄化療法センターにおけるインフルエンザ集団発生について

平成31年2月透析患者のインフルエンザが多発した。個々の持ち込みもあったが、更衣室や待合室での交差感染も疑われた。流行前より患者指導されている「マスク着用」「入退室時の手指消毒」「体調不良時の事前申し出」が徹底できるよう、①入口にウェルフォームとマスクを配備 ②入室時の体調確認強化 ③環境清掃の強化を図った。それにより早期に終息することができた。本事例の教訓を次年度に活かしていく。

25. 呼吸サポートチーム（RST）活動報告

1. メンバー紹介

- RST

岸 正人（麻酔科） 菊池 元（麻酔科） 長谷川 幸人（臨床工学技士）

齋藤 加恵（理学療法士） 佐太木 淳一（理学療法士）

田中 大輔（薬剤師） 三浦 良哉（集中治療センター看護師） 佐藤 慎吾（集中治療センター看護師）

薄葉 由里子（集中治療センター看護師）

- RSTリンクスタッフ

神尾 季代子（4E） 岩浪 英里（4W） 齋藤 さち（NICU） 進藤 ちさと（5E）

齋藤 多恵（5W） 伊藤 妃菜（6E） 菊池 彩（6W） 富樫 京（7E） 千葉 知恵美（7W）

大滝 まり子（8E） 佐藤 佳奈（8W）

2. RST介入依頼件数および人工呼吸器患者の動向

当院における、2018年1月から12月までの人工呼吸器装着患者は150名で、人工呼吸器使用期間は1日から最長220日で平均は7日、中央値2日でした。人工呼吸器患者の入院期間は死亡退院を含める1日から現在入院中の患者を含め最長347日で平均40.7日、中央値30日でした。2017年との比較では、人工呼吸器装着患者数は減少傾向にあります。人工呼吸器装着平均日数は10日から7日と減少したが、入院日数平均値は40日から42日と増加、入院日数中央値は29.5日から30日であり平均値としてはほぼ変化はありませんでした。（図1）。

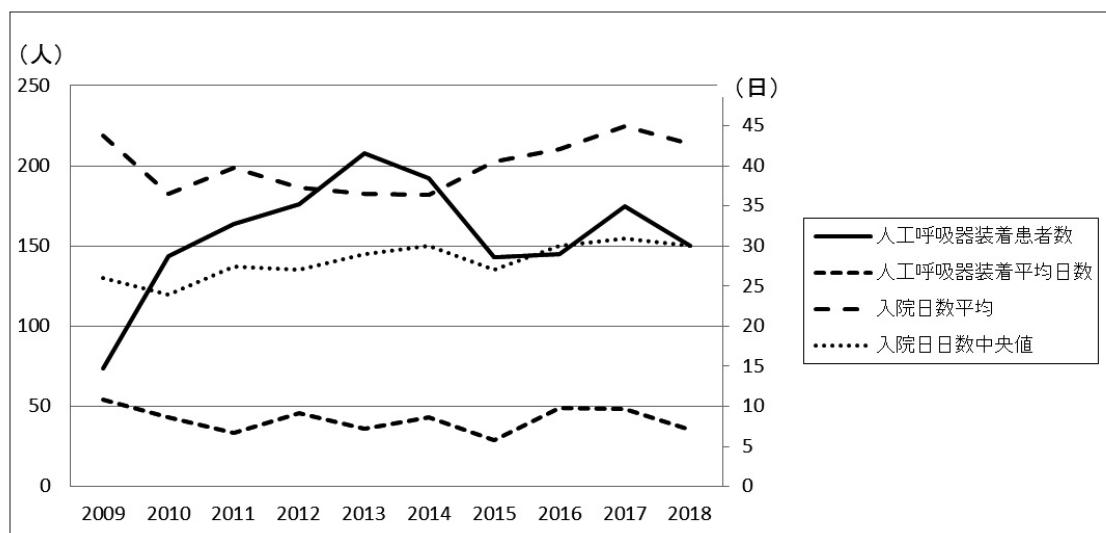


図1 人工呼吸器患者の動向

人工呼吸器使用状況は、緊急術後症例が25%、循環不全が24%、次いで術後症例予定が15%でした（図2）。概ね過去5年間と変わらず、緊急術後症例と循環不全（心停止含む）の人工呼吸器使用が多い傾向となっています。

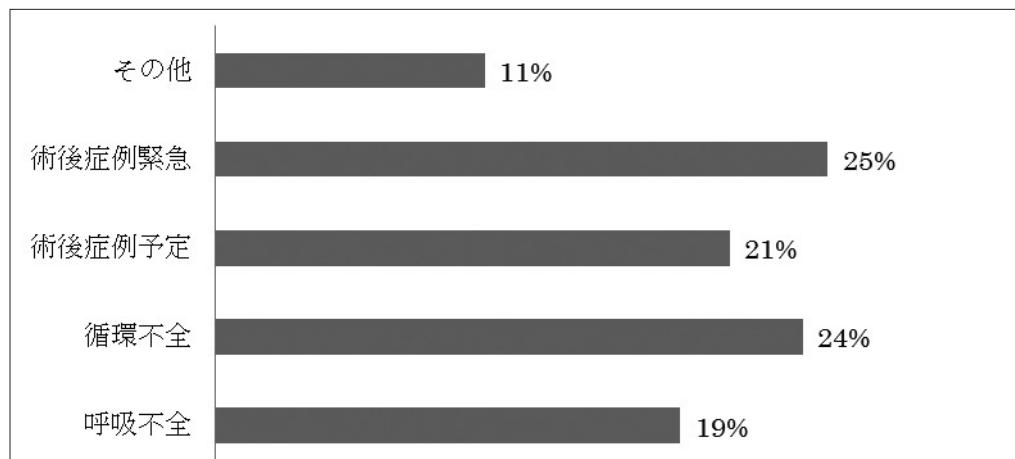


図2 人工呼吸器使用状況

科別人工呼吸器使用状況では例年通り循環器科・脳外科の使用が多く、ついで外科の使用が多い傾向でした（図3）。

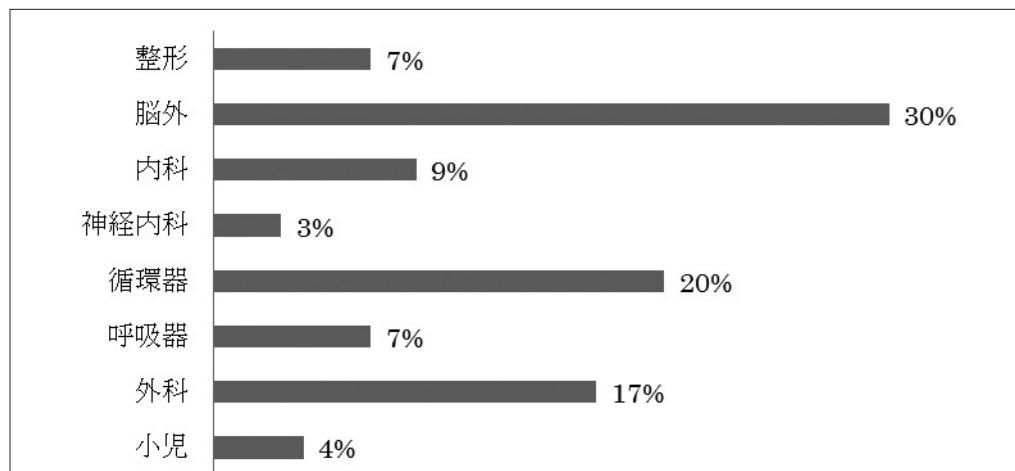


図3 科別人工呼吸器使用状況

脳神経外科ではICD・SDH・SAHによる開頭術（coil含む）が75%、外科では消化管腫瘍開腹術が42%、循環器科ではうっ血性心不全が73%、冠動脈疾患が10%でした。これまでよりも心不全患者に対するNP PV装着が増加しています。内科においては感染の割合が50%と多く次いで呼吸停止42%、心停止後21%でした。また、2018年の人工呼吸器装着患者の死亡者数は20名で昨年より15名減少しており、循環不全が大幅に減少しました（図4）。死亡率に占める割合の25%が呼吸停止、15%が蘇生に成功した心停止でした。残りの死因として心不全が20%、外傷10%、感染10%でした。

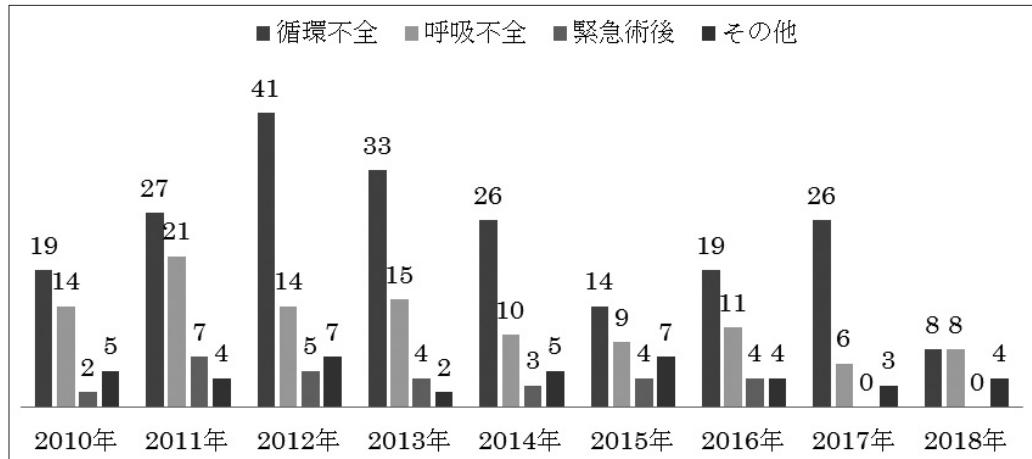


図4 年別死亡原因

RST介入率（図5）は、全体の呼吸器使用患者の72%と昨年より増加しており、非介入例の内訳として、DNR、主治医管理を含め介入前や土日の早期抜管が多かった。非介入としては例年通りの結果と考えます。また、介入期間は1日から最大87日間と長く介入していた患者もいますが平均で6.4日、中央値で3日でした。人工呼吸器離脱率（図6）は2009年からの10年間のデータでは6割から7割後半程度で推移しており、大きな変化はありません。離脱できなかった患者の大半は死亡退院でした。

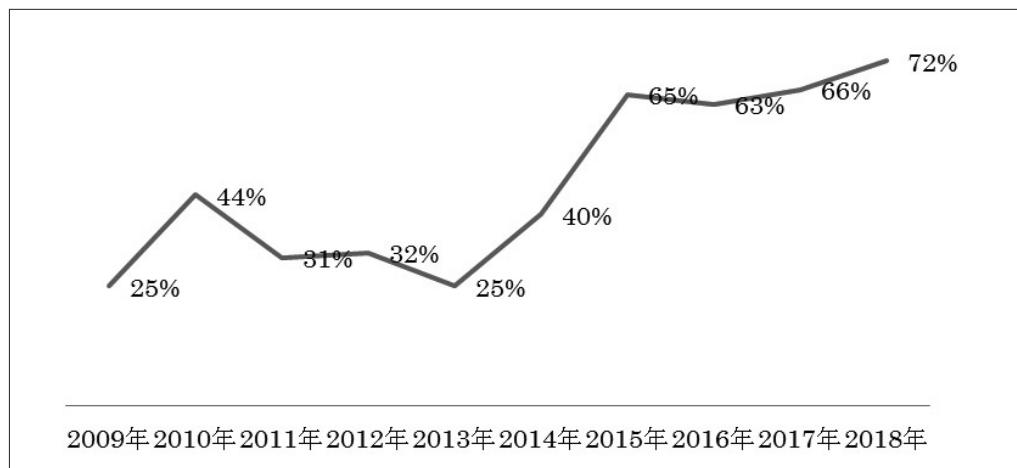


図5 R S T 介入率

3. RST委員会活動内容

①人工呼吸器装着患者ラウンド

主に集中治療センターにおいて、人工呼吸器装着患者のうち介入依頼のあった症例に対し介入し、人工呼吸器管理から離脱までを主治医とともに管理している。

②広報紙：合計2枚発行（7月、3月）

③SBT評価：人工呼吸器離脱プロトコル改訂、抜管評価追加

④記録の標準化：SAT/SBT/抜管/早期離床についてテンプレート作成

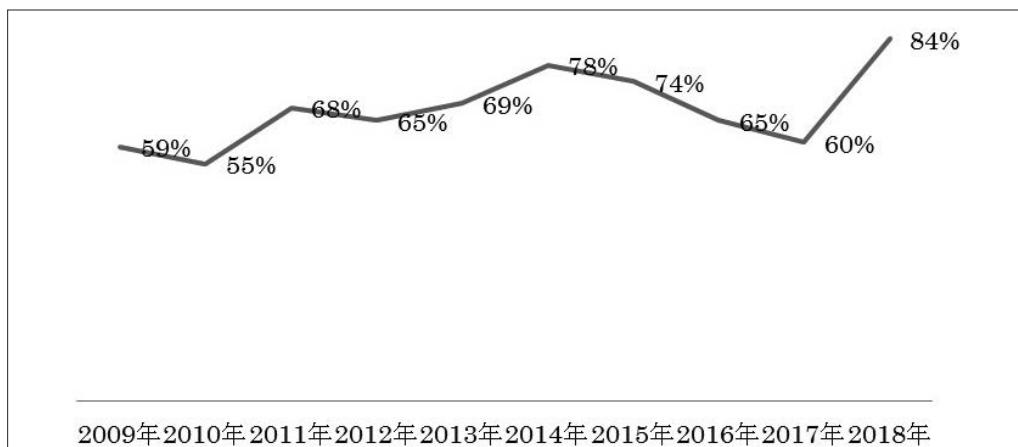


図6 人工呼吸器介入率

4. RSTリンクスタッフ活動報告

①RSTリンクナースによる入院棟ラウンド

リンクナース会議の一環として、人工呼吸器装着中患者および、酸素療法や呼吸療法が必要な患者のラウンドを実施し、管理方法やケアについて共有することで、リンクナースの自部署における役割の明確化と知識の確立を図った。

②自部署における呼吸ケアに関する問題解決に向けた取り組み

呼吸療法関連の問題点を抽出（現状把握）し各部署で問題解決・改善に向けての活動を実践した。

また、それらの内容を共有することで、呼吸ケアにおける意識の向上につなげた。

③ 呼吸回数測定の定着に向けた活動

当院の呼吸回数測定率は10%程度とかなり低値である。そのため呼吸回数測定の必要性や測定方法に関しての学習会や周知を行ったが測定率に変化は見られなかった。引き続き呼吸回数測定が定着するよう活動を継続する。

5. 講演会

テーマ：「人工呼吸の基礎」「呼吸の観察」

講 師：新潟大学医歯学総合病院 高次救命災害治療センター助教

星野 芳史先生

莊内病院 集中治療センター看護師

佐藤 慎吾

講 演 日：2018年2月16日（金）18:00～19:30

参加人数：51名（看護部 43名、診療部 8名）

学習会

呼吸のフィジカルアセスメント

1回目（6月15日）10名

2回目（12月14日）14名

6. 3学会合同呼吸療法認定士

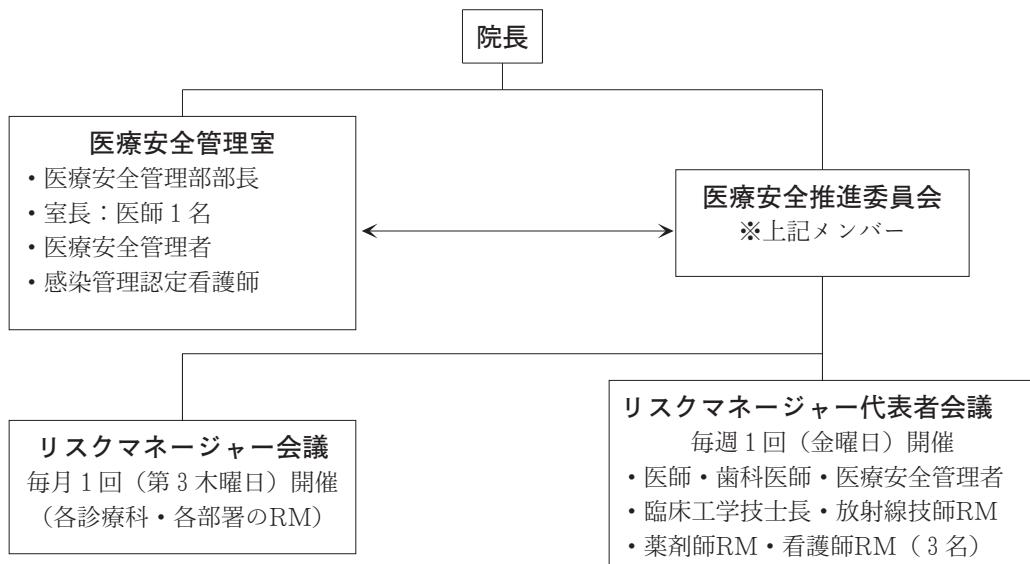
平成30年 第22回呼吸療法認定士取得 星野 悠太（看護師）

26. 医療安全推進委員会活動報告

1. 医療安全推進委員会 委員紹介

五十嵐 裕一（医師・医療安全管理部部長） 大滝 雅博（医師・医療安全管理室室長）
 金子 弘美（看護師・医療安全管理者） 岸 正人（医師） 武石 越郎（歯科医師） 清野 由利（薬剤師）
 鈴木 貴志（検査技師） 近藤 敏仁（病理技師） 富樫 博子（栄養専門員） 落合 一美（放射線技師）
 池田 浩徳（リハビリテーション技士） 石川 陽市（臨床工学技士）
 富樫 恒子・牧 順・齋藤 由美・石井 真由美（看護師） 今野 一夫（総務課） 菅原 広光（医事課）
 松浦 淳（事務局）

○医療安全管理組織図



〈本委員会設置目的〉

当院における医療安全管理対策を総合的に企画、実施する

2. 活動内容

- ・定例委員会 毎月1回開催（第2火曜日）

○研修会の開催

【全職員必須研修】

- ・「手作り医療安全を振り返って」講師：多田 敏彦（山形県立河北病院 院長）570名（2018.6.22）
- ・「やってみよう！KYT（4回開催）」
　　講師：武石 越郎（当院歯科医師）・他看護師RM 85名（2018.5.31・7.20・9.27・2019.1.30）
- ・「輸液ポンプ・シリンジポンプ」　講師：満尾 弘樹（テルモ）116名（2018.11.19）
- ・「MRI安全研修」講師：齋藤 光典（当院放射線技師）226名（2018.10.11）

- ・「安全な麻薬管理」講師：清野 由利（当院薬剤師）
 - ・「医療現場の暴力対応」講師：今野 志津子 他 2名（当院看護師RM）
 - ・「事例から振り返る当院の医療安全」講師：三科 武（当院院長）
- } 572名 (2019.2.27)

○院内パトロール（7月・11月）

○看護部RMによる活動

- ・安全ラウンド（毎月第3水曜日、8回/年）
- ・ワーキンググループ活動（誤薬防止WG・転倒転落防止WG・患者誤認防止WG）

○広報活動

- ・月報
- ・医療安全管理室情報（10回/年発行）
- ・医療安全管理室ニュース（10回/年発行）

○医療安全マニュアル新規作成・改訂

- ・MRIチェックリスト運用マニュアル（新規作成）
- ・ビグアナイド系糖尿病薬内服患者におけるヨード造影剤使用時の休薬マニュアル（新規作成）
- ・転倒転落予防「カエルコールのお願い（立て札）」の運用について（新規作成）
- ・ICレコーダー運用マニュアル（医事課各種運用マニュアル・新規作成）
- ・医療事故発生時の対応（改訂）
- ・患者誤認防止マニュアル（改訂）

○院外発表

- ・医療マネジメント学会 山形県支部学術集会 （2018.7.21 山形）
「看護部リスクマネージャーによる安全ラウンドの効果と課題」 金子 弘美

3. 活動の評価

- ・医師の医療安全報告に関する意識を高める取り組みとして、H29年度より開始した「タイムアウト・オカレンス報告（全身麻酔予定手術患者対象）」が定着している。
- ・医療安全報告数が前年度より増加し、2600件に達した。しかし事象レベル0報告率は24.9%と低下し、事象レベル3b以上発生率は1.4%と増加した。未然の気づき（リスク感性）の強化とレベル3b事例を占める転倒転落予防対策の強化が課題である。
- ・画像所見レポートの見落とし対策について放射線画像センターと協働し運用を開始した。
- ・H29年度から開始した看護部リスクマネージャーによる安全ラウンド（誤薬予防・転倒転落予防・誤認予防）が定着した。インシデント事例の多い分野に特化した介入は、課題の吸い上げに効果があった。しかし組織横断的に取り組む仕組みが不十分であることから、看護部以外の他職種RMによる役割発揮が課題である。効果がみられた安全ラウンドをリスクマネージャー会議へ移行し、課題解決に向けて組織横断的な活動とし、安全対策の強化を図る必要がある。
- ・今年度からの新設加算「医療安全地域連携加算における相互チェックの実施」に向け、推進委員会とリスクマネージャーが協働で取り組んだ（課題の抽出、具体策の検討など）。連携施設間とのラウンドは良い刺激となり、当院の安全対策に活用することができた。来年度の相互チェックにおいては、より現場に即した課題（転倒転落など）に着目し、連携施設間における安全対策の向上を目指す。

4. 課題

- ・課題解決に向けた多職種リスクマネージャーによる組織横断的な安全活動の構築
- ・事象レベル3b事例（主に転倒転落事例）発生減少に向けた取り組み
- ・安全対策に活かすための相互チェックの構築（連携施設との協同含む）

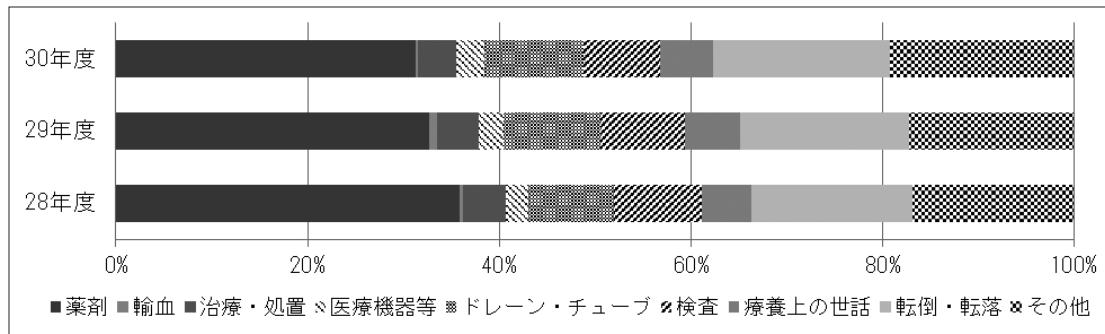


図1 分類別報告数年度毎の比較

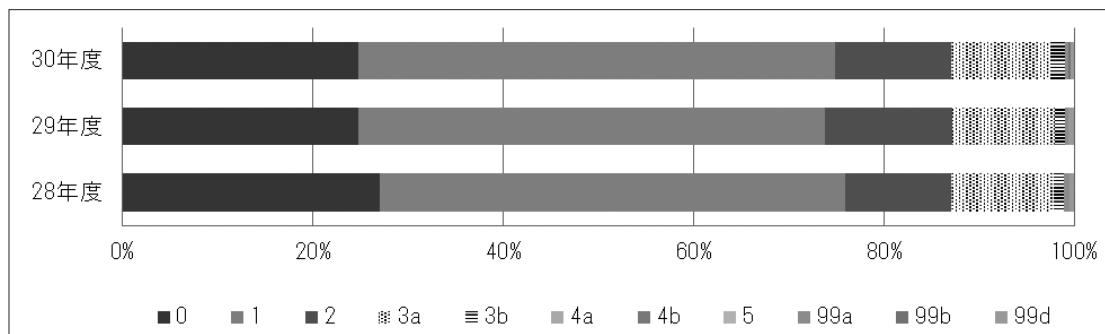


図2 事象レベル別報告数年度毎の比較

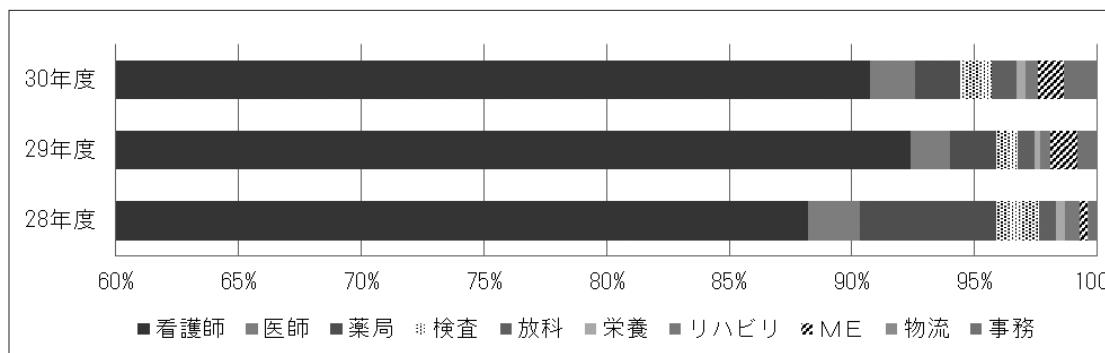


図3 職種別報告数年度毎の比較